



stcli コマンド

- [stcli コマンド](#) (1 ページ)
- [stcli appliance コマンド](#) (3 ページ)
- [stcli cluster コマンド](#) (8 ページ)
- [stcli datastore コマンド](#) (28 ページ)
- [stcli disk コマンド](#) (31 ページ)
- [stcli dp \(data protection\) コマンド](#) (33 ページ)
- [stcli license コマンド](#) (67 ページ)
- [stcli node コマンド](#) (71 ページ)
- [stcli security コマンド](#) (81 ページ)
- [stcli services コマンド](#) (87 ページ)
- [stcli vm clone および snapshot コマンド](#) (105 ページ)

stcli コマンド

stcli コマンド

HX Data Platform コマンドラインインターフェイス (CLI) コマンドは、すべて **stcli** で始まります。

```
stcli [-h] {about | services | vm | dp | snapshot-schedule | cluster | appliance | node | disk | datastore | file | security | license }
```

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
about	いずれか1つが必須。	コントローラ VM サービスであるストレージマネージャ (stMgr) に関する情報。
appliance	セットのいずれかが必要。	ストレージ クラスター アプライアンス名前空間でサポートされているコマンド。

Option	必須またはオプション	説明
cluster	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ名前空間でサポートされているコマンド。
datastore	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ データストア名前空間でサポートされているコマンド。
disk	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ ディスク名前空間でサポートされているコマンド。
file	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ VM ファイル名前空間でサポートされているコマンド。
license	セットのいずれかが必要。	スマート ライセンス名前空間でサポートされているコマンド。
node	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ ノード名前空間でサポートされているコマンド。ストレージクラスタ ノードは、ハイパーバイザー ノードとストレージコントローラで構成されています。ストレージクラスタ ノードでは、ハイパーバイザー ID/IP を識別に使用します。
security	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ セキュリティ名前空間でサポートされているコマンド。
services	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ システム サービス名前空間でサポートされているコマンド。
snapshot-schedule	セットのいずれかが必要。	このストレージクラスタ内のすべてのオブジェクトに対するスナップショット スケジュールを有効/無効にします。
vm	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ VM 名前空間でサポートされているコマンド。

コマンド デフォルト なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli about コマンド

HX コントローラ VM のサービスであるストレージ マネージャ (stMgr) に関する情報を表示します。これは、コントローラ VM を管理するサービスです。

stcli about

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli about コマンドを実行します。

```
# stcli about
serviceType: stMgr
instanceUuid:
name: HyperFlex StorageController
locale: English (United States)
serialNumber:
apiVersion: 0.1
modelName: X9DRT
build: 2.0.1a-19584 (master)
displayVersion: 2.0 (1a)
fullName: HyperFlex StorageController 2.0.1a
productVersion: 2.0.1a-19584
```

stcli -help コマンド

すべての stcli コマンドに対するヘルプ オプション。

stcli [COMMAND] [-h]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	-h, --help	必須	指定されているコマンドに関連するヘルプメッセージを表示して終了します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli コマンドでは、位置指定のコマンドまたは引数のいずれかと --help オプションを指定します。

stcli appliance コマンド

stcli appliance コマンド

アプライアンス操作。

stcli appliance [-h] {list | discover}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	list	いずれか1つが必須。	ストレージ クラスタ内のストレージ クラスタ アプライアンスをリストします。

Option	必須またはオプション	説明
discover	セットのいずれかが必要。	ネットワーク内の新しいストレージクラスターアプライアンスを検出します。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli appliance コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli appliance list コマンド

ストレージクラスタ内のストレージクラスターアプライアンスをリストします。

stcli appliance list [-h]

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli appliance list アプライアンス コマンドを実行します。

次に、切り取られた応答の例を示します。

```
# stcli appliance list
ps:
-----
status: green
name: Power Supply 1 PS1 Status: Power Supply AC lost - Deassert
-----
status: green
name: Power Supply 2: Running/Full Power-Enabled
-----
status: green
name: Power Supply 1: Running/Full Power-Enabled
-----
status: green
name: Power Supply 1 PS1 Status: Predictive failure - Deassert
-----
status: green
name: Power Supply 2 PS2 Status: Failure status - Deassert
-----
status: green
name: Power Supply 2 PS2 Status: Predictive failure - Deassert
-----
status: green
name: Power Supply 2 PS2 Status: Power Supply AC lost - Deassert
-----
status: green
name: Power Supply 1 PS1 Status: Failure status - Deassert
-----

serialNumber:
disks:
  EntityRef(type=10, id='5000c500642d17ad:0000000000000000', name='/dev/sde'):
    status: online
    serialNumber: 9XG4XS2V
```

```

        capacity: 931.5G
        slotNumber: 1.1.4
        logicalname: /dev/sde
        modelNumber: ST91000640NS
        entityRef:
            type: pdisk
            id: 5000c500642d17ad:0000000000000000
            name: /dev/sde
        version: SN03
        vendor: Seagate
    EntityRef ...

modelNumber: X9DRT
pnics:
    EntityRef(type=3, id='00000000-0000-0000-0000-002590d423b2', name='cs-002a'):
    -----
        device: vmnic2
        mac: 90:e2:ba:54:6d:04
        pci: 0000:04:00.0
        speedMb: 10000
    -----
    ...
    EntityRef(type=3, id='00000000-0000-0000-0000-002590d42388', name='cs-002c'):
    -----
        device: vmnic0
        mac: 00:25:90:d4:23:88
        pci: 0000:02:00.0
        speedMb: 1000
    -----
    ...

nodes:
    A:
        state: online
        upgradeState: ok
        storfsIp:
            addr: 10.104.48.24
            stService: stctl
            vlanId: 311
            gateway: 10.104.48.1
            subnetMask: 255.255.240.0
            method: static
        pNode:
            about:
                serviceType: sysmAgent
                instanceUuid: d8e6ec9a564de28a:9d870ca45456c471
                name:
                locale: en-US
                serialNumber: unset
                apiVersion: 0.0.1
                modelNumber: unset
                build: 2.0.1-release-20569
                displayVersion: 2.0(1a)
                fullName: HyperFlex StorageController-2.0.1a
                productVersion: 2.0.1a-20569
            retired: False
            compression: True
            ip: 10.104.48.24
            disks:
                -----
                blacklistCount: 0
                medium: rotational
                capacity: 931.5G

```

```

state: ready
version: 0
entityRef:
  type: disk
  id: 5000c500642e0f8f:0000000000000000
usage: persistence
path: /dev/sdd
lastModifiedTime: 1484715441000
usedCapacity: 9.2G
-----
...
-----

dedup: True
nsPrimary: True
dataWriteThruEnabled: True
state: ready
bootTime: 0
master: False
entityRef:
  type: pnode
  id: d8e6ec9a564de28a:9d870ca45456c471
  name: 10.104.48.24
version: 0
lastModifiedTime: 1484715441000
name: 10.104.48.24

host:
state: online
about:
  serviceType: HostAgent
  instanceUuid: 00000000-0000-0000-0000-002590d423b2
  name: VMware ESXi
  locale: English (United States)
  serialNumber: 0123456789
  apiVersion: 6.0
  modelNumber: X9DRT
  build: 3380124
  fullName: VMware ESXi 6.0.0 build-3380124
  productVersion: 6.0.0

stctlvm:
name: stCtlVM-0123456789 (2)
ip: 10.104.48.24
guestHostname:
mgmtClusterIp: 10.104.32.32
storageNetworkIp: 10.104.48.24
moid: vm-885
role: storage
entityRef:
  type: virtmachine
  id: vm-885
  name: stCtlVM-0123456789 (2)
version: 2.1.1
passthrough: pci
guestState: running
mgmtNetworkIp: 10.104.32.28

name: cs-002a
ip:
  addr: 10.104.32.21
  stService: hypervisor
  vlanId: 0
  gateway: 10.104.32.1
  subnetMask: 255.255.240.0
  method: static

```

```

moid: host-879
ipmiSettings:
  addr: 10.104.32.20
  stService: ipmi
  gateway: 10.104.32.1
  subnetMask: 255.255.240.0
  method: dhcp

ioVisor:
  about:
    serviceType: scvmclient
    instanceUuid:
    name: Springpath I/O Visor
    locale:
    serialNumber:
    apiVersion:
    modelNumber:
    build:
    fullName: Springpath I/O Visor
    productVersion: 2.0.1a-20569
    state: offline

bootTime: 0
entityRef:
  type: node
  id: 00000000-0000-0000-0000-002590d423b2
  name: cs-002a
vMotionIp:
  addr: 10.104.48.20
  vlanId: 311
  gateway: 10.104.32.1
  subnetMask: 255.255.240.0
  method: static
enclosureSerialNumber:

entityRef:
  type: node
  id: 00000000-0000-0000-0000-002590d423b2
  name: cs-002a
progress:
-----
completion: 100
parent:
  type: node
  id: 00000000-0000-0000-0000-002590d423b2
  name: 10.104.48.24
name: Disk Prepare /dev/sdb
state: succeeded
entity:
  type: disk
  id: 55cd2e404b6d511e:0000000000000000
description: Ignored solid state drive /dev/sdb
-----
...
-----
upgradeVersion: 2.0.1a-20569
C:
state: online
upgradeState: ok
storfsIp:
  addr: 10.104.48.27
  stService: stctl
  vlanId: 311
  gateway: 10.104.48.1
  subnetMask: 255.255.240.0

```

```
method: static
pNode: ...
```

stcli appliance discover コマンド

ネットワーク内の新しいストレージクラスタ アプライアンスを検出します。何も検出されない場合は、検索にかかった時間のみが返されます。

stcli appliance discover [-h]

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli appliance discover コマンドを実行します。

stcli cluster コマンド

stcli cluster コマンド

HX Data Platform ストレージクラスタ操作。

stcli cluster [-h] {prepare | create | info | diag | refresh | shutdown | start | upgrade | upgrade-status | upgrade-kernel | version | create-config | recreate | reregister | get-data-replication-factor | get-cluster-access-policy | set-cluster-access-policy | enable-data-write-thru | disable-data-write-thru | storage-summary | get-zone | set-zone}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	create	いずれか 1 つが必須。	ストレージクラスタを作成します。名前を付け、IP アドレスで識別されるノードをいくつか指定します。
	create-config	セットのいずれかが必要。	設定ファイルからストレージクラスタを作成します。
	diag	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタに関する診断メッセージを提供します。
	disable-data-write-thru	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタでデータのライトスルーを無効にします。

Option	必須またはオプション	説明
enable-data-write-thru	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタでデータのライトスルーを有効にします。
get-cluster-access-policy	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタのクラスタアクセスポリシーを取得します。
get-data-replication-factor	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタのデータレプリケーション係数を取得します。
info	セットのいずれかが必要。	現在設定されているストレージクラスタに関する情報を提供します。
prepare	セットのいずれかが必要。	IP アドレスで識別されるノードのセット用にストレージクラスタのネットワーク設定を準備します。
recreate	セットのいずれかが必要。	強制オプションで既存のストレージクラスタを再作成します。
refresh	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタのステータスを更新します。
reregister	セットのいずれかが必要。	vCenter 間で既存のストレージクラスタを再登録します。
set-cluster-access-policy	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタのクラスタアクセスポリシーを設定します。
shutdown	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタをシャットダウンします。
start	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタを起動します。
storage-summary	セットのいずれかが必要。	現在設定されているストレージクラスタについてストレージの概要を提供します。
upgrade	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタをアップグレードします。

Option	必須またはオプション	説明
upgrade-kernel	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタのアップグレードカーネルに関する暫定的な情報を提供します。
upgrade-status	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタのアップグレードステータスに関する暫定的な情報を提供します。
version	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタのバージョンに関する情報を提供します。
get-zone	いずれか1つが必須	ゾーンの詳細を取得します。 Gets the zone details. このオプションは、ゾーンが有効になっているか確認するために使用されます。
set-zone	いずれか1つが必須	ゾーンを有効または無効にします。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン `stcli cluster` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli cluster prepare コマンド

IP アドレスで識別されるノードのセット用にストレージクラスタのネットワーク設定を準備します。



(注) **stcli cluster prepare** コマンドは、クラスタがまだ展開されていない場合にのみサポートされます。実行中のクラスタの自動ワークフローを使用します。



(注) これは高度なコマンドです。TAC のサポートなしで使用しないでください。

```
stcli cluster prepare [-h] [--node-ips NODEIPS [NODEIPS...]] [--config CONFIG] [--hypervisor-ips
HYPERVISORIPS [HYPERVISORIPS...]] [--storefs-ips STORFSIPS [STORFSIPS...]] [--ipmi-ips
IPMIIPS [IPMIIPS...]] [--vmotion-ips VMOTIONIPS [VMOTIONIPS...]] [--netmask NETMASK]
[--gateway GATEWAY] [--vlan VLAN] [--netmask1 NETMASK1] [--gateway1 GATEWAY1]
```

```
[--vlan1 VLAN1] [--dns DNS [DNS ...]] [--ntp NTP [NTP ...]] [--timezone TIMEZONE] [--smtp SMTPSERVER] [--fromaddress FROMADDRESS] [--dryrun]
```

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--config CONFIG	いずれか1つが必須。	ネットワーク設定ファイル。
--node-ips NODEIPS [NODEIPS ...]	いずれか1つが必須。	設定に追加するストレージクラスタノードのIPアドレス。IPアドレスが複数ある場合はスペースで区切ります。
--dns DNS [DNS ...]	オプション。	DNS サーバのIPアドレス。IPアドレスが複数ある場合はスペースで区切ります。
--dryrun	オプション。	入力パラメータを検証するだけです。
--fromaddress FROMADDRESS	オプション。	自動サポート電子メールの送信元となるアドレス。
--gateway GATEWAY	オプション。	デフォルトゲートウェイ。
--gateway1 GATEWAY1	オプション。	デフォルトゲートウェイ 1。
--hypervisor-ips HYPERVERSORSIPS [HYPERVISORSIPS ...]	オプション。	適用するハイパーバイザのIPアドレス。IPアドレスが複数ある場合はスペースで区切ります。
--ipmi-ips IPMIIPS [IPMIIPS ...]	オプション。	適用するIPMIのIPアドレス。IPアドレスが複数ある場合はスペースで区切ります。
--netmask NETMASK	オプション。	サブネットマスク。
--netmask1 NETMASK1	オプション。	サブネットマスク 1。
--ntp NTP [NTP ...]	オプション。	NTP サーバのIPアドレス。サーバIDが複数ある場合はスペースで区切ります。
--smtp SMTPSERVER	オプション。	SMTP サーバ。
--storefs-ips STORFSIPS [STORFSIPS ...]	オプション。	適用するストレージクラスタのIPアドレス。IPアドレスが複数ある場合はスペースで区切ります。
--timezone TIMEZONE	オプション。	タイムゾーン。

Option	必須またはオプション	説明
--vlan VLAN	オプション。	VLAN タグ。
--vlan1 VLAN1	オプション。	VLAN タグ 1。
--vmotion-ips VMOTIONIPS [VMOTIONIPS ...]	オプション。	適用する vMotion の IP アドレス。IP アドレスが複数ある場合はスペースで区切ります。

コマンド デフォルト なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli cluster prepare コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



(注) TAC のサポートなしでこのコマンドを使用しないでください。

stcli cluster create コマンド

ストレージクラスタを作成します。名前を付け、IP アドレスで識別されるノードをいくつか指定します。



重要 プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

```
stcli cluster create [-h] --name NAME --ip IP --mgmt-ip MGMTIP [--vcenter-datacenter
DATACENTER] [--vcenter-cluster VCENTERCLUSTER] [--vcenter-url VCENTERURL]
[--vcenter-sso-url VCENTERSSOURL] [--vcenter-user VCENTERUSER] --node-ips NODEIPS
[NODEIPS ...] [--data-zk-ip DATAZKIP] --data-replication-factor {2 | 3} [--cluster-access-policy
{strict | lenient}] [--zone { 0 | 1}] [--vdi-only-deployment] [--clusterType {0,1,2}] [-f] [--dryrun]
[--esx-username ESXUSERNAME] [--deploymentMode {0,1}] [--managedBy {0,1}]
```

表 1: 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--ip IP	必須	ストレージクラスタ ノードの IP アドレス。IP は、stcli cluster info コマンドでリストされます。
--mgmt-ip MGMTIP	必須	ストレージクラスタ管理サーバの IP アドレス。
--name NAME	必須	ストレージクラスタの名前。

Option	必須またはオプション	説明
--node-ips NODEIPS [NODEIPS ...]	必須	ストレージクラスタに追加するすべてのコンバージドノードの IP アドレス。
--vcenter-user VCENTERUSER	任意	vCenter 管理者のユーザ名。 プロンプトが表示されたら vCenter 管理者パスワードを入力します。
--cluster-access-policy {strict, lenient}	オプション。デフォルト lenient	クラスタ アクセス ポリシー (strict または lenient)。
[--data-zk-ip DATAZKIP]	オプション	データ ZK サーバーの IP
--data-replication-factor {2, 3}	オプション。デフォルト 3	データ レプリケーション係数 (2 または 3)。これは、初めてストレージクラスタを作成するときのみ設定できます。
--dryrun	任意	入力パラメータを検証するだけです。
--esx-username ESXUSERNAME	任意	ESX 管理者のユーザ名。 プロンプトが表示されたら ESX 管理者パスワードを入力します。
-f, --force	任意	強制的にストレージクラスタを作成します。これは、ネットワーク設定エラーを無視し、提供された情報でクラスタを作成します。
--vcenter-cluster VCENTERCLUSTER	任意	vCenter クラスタの名前。
--vcenter-sso-url VCENTERSSOURL	任意	vCenter SSO サーバの URL。指定されていない場合、これは --vcenter-url から推測されます。
--vcenter-url VCENTERURL	任意	vCenter の URL、<vcentername>。 <vcentername> には、FQDN または IP アドレスを指定できます。
--vdi-only-deployment	オプション。デフォルトは VSI です。	ワークロードタイプとして VDI を設定します。
--clusterType {0,1,2}	任意	0: デフォルトクラスタ、1: ストレッチクラスタ、2: 2 ノードエッジクラスタ
-zone {0,1}	任意	ゾーンを有効 (1) または無効 (0) にします。

Option	必須またはオプション	説明
--deploymentMode {0,1}	オプション	0 : エッジ、1 : FI
--managedBy {0,1}	オプション	0 : HX コネクト、1 : インターサイト
コントローラ VM ルート ユーザー パスワード	任意	すべてのノードが同じパスワードである 必要があります。 プロンプトが表示されたらコントローラ VM パスワードを入力します。

コマンド デフォルト なし。必須および省略可能なパラメータのリストについては、表を参照してください。

使用上のガイドライン `stcli cluster create` コマンドでは、適切な位置指定引数を指定します。

stcli cluster info コマンド

ストレージクラスタとそのストレージクラスタ内の各ノードに関する詳細情報を表示します。

stcli cluster info [-h] --summary

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--summary	オプション。	情報の要約のみを返します。

コマンド デフォルト 完全なクラスタ情報を返します。

使用上のガイドライン `stcli cluster info` コマンドでは、[] で囲まれた位置指定引数を任意に指定して、クラスタ情報の概要を返すことができます。



(注) vCenter または stMgr がダウンしている場合、stcli データ保護操作からのエラー メッセージは一目でわかりません。vCenter 接続が良好であること、および「stcli cluster info」コマンドがクラスタの健全性ステータスを返すことを確認してから、stcli データ保護操作を実行してください。

```
# stcli cluster info
about:
  serviceType: stMgr
  instanceUuid: 345258cf-12d4-4d71-ba9e-b91e47d15e49
  name: HyperFlex StorageController
  locale: English (United States)
  serialNumber:
  apiVersion: 0.1
  modelNumber: X9DRT
  build: 2.0.1a-20569 (internal)
```

```
displayVersion: 2.0(1a)
fullName: HyperFlex StorageController 2.0.1a
productVersion: 2.0.1a-20569
vCluster:
  state: online
  boottime: 0
  entityRef:
    type: virtcluster
    id: domain-c876
    name: cs002-cl
  virtNodes:
    -----
    type: virtnode
    id: 00000000-0000-0000-0000-002590d423a4
    -----
    type: virtnode
    id: 00000000-0000-0000-0000-002590d42388
    -----
    type: virtnode
    id: 00000000-0000-0000-0000-002590d423b2
    -----
  virtDatastores:
upgradeState: ok
upgradeVersion: 2.0.1a-20569
cluster:
  allFlash: False
  healthState: healthy
  capacity: 5.0T
  state: online
  compliance: 1
  resiliencyInfo:
    nodeFailuresTolerable: 1
    state: 1
    messages:
      Storage cluster is healthy.
    cachingDeviceFailuresTolerable: 1
    persistentDeviceFailuresTolerable: 1
  activeNodes: 3
  uptime: 18:53:15
  boottime: 1484703014
  entityRef:
    type: cluster
    id: 345258cf12d44d71:456146e1b82ea1b7
  downtime: 0:00:00
  healingInfo:
    inProgress: False
  freeCapacity: 5.0T
  usedCapacity: 55.0G
  config:
    clusterUuid: 345258cf12d44d71:456146e1b82ea1b7
    ip: 10.104.48.28
    dataReplicationFactor: 2
    clusterAccessPolicy: lenient
    size: 3
  nodes:
    -----
    type: pnode
    id: bf7a0223564d0db8:88974e15886ab3e0
    name: 10.104.48.27
    -----
    type: pnode
    id: d1b5bc18564da19b:bc1e977ebd9aafec
```

```

        name: 10.104.48.26
        -----
        type: pnode
        id: d8e6ec9a564de28a:9d870ca45456c471
        name: 10.104.48.24
        -----
    rawCapacity: 10.0T
    state: online
    stNodes:
    -----
        type: node
        id: 00000000-0000-0000-0000-002590d423b2
        name: cs-002a
        -----
        type: node
        id: 00000000-0000-0000-0000-002590d42388
        name: cs-002c
        -----
        type: node
        id: 00000000-0000-0000-0000-002590d423a4
        name: cs-002d
        -----
    entityRef:
        type: cluster
        id: 3770173484459904369:4999354996629610935
        name: cs002-cl
    config:
        clusterUuid: 3770173484459904369:4999354996629610935
        name: cs002-cl
        mgmtIp:
            addr: 10.104.32.32
            method: dhcp
        vCenterDatacenter: cs002-dc
        ip:
            addr: 10.104.48.28
            method: dhcp
        vCenterClusterName: cs002-cl
        dataReplicationFactor: 2
        workloadType: 2
        vCenterClusterId: domain-c876
        nodeIPSettings:
            cs-002d:
            cs-002c:
            cs-002a:
        vCenterDatacenterId: datacenter-871
        clusterAccessPolicy: lenient
        vCenterURL: cs-vc6
        dnsServers:
        size: 3

```

stcli cluster diag コマンド

クラスタに関する診断メッセージを提供します。

```
stcli cluster diag [-h] [--id ID | --ip NAME] [--type TYPE]
```


構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--id ID	オプション。	ストレージクラスタ ノードの ID。ID は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。
	--ip NAME	オプション。	ストレージクラスタ ノードの IP アドレス。IP は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。
	--type TYPE	オプション。	ストレージクラスタ ノードのタイプ。省略可能なパラメータは <code>converged</code> と <code>compute</code> です

コマンド デフォルト ノードを指定しないと、デフォルトがストレージクラスタのすべてのノードに適用されます。

使用上のガイドライン `stcli cluster diag` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli cluster refresh コマンド

ストレージクラスタのステータスを更新します。

stcli cluster refresh [-h]

コマンド デフォルト 更新されたクラスタのステータスを返します。

使用上のガイドライン `stcli cluster refresh` コマンドは、クラスタのステータスを手動で更新するために実行します。

stcli cluster shutdown コマンド

ストレージクラスタ操作を停止してシャットダウンします。

stcli cluster shutdown [-h] [--formatchange]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--formatchange	オプション。	クラスタのシャットダウン後にディスクフォーマットを変更できるようにします。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli cluster shutdown` コマンドは、[] で囲まれた引数を任意に指定して実行します。

stcli cluster start コマンド

ストレージクラスタを起動します。

stcli cluster start [-h]

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli cluster start コマンドには、他にオプションはありません。

stcli cluster upgrade コマンド

HX Data Platform ソフトウェアを最新のバージョンにアップグレードします。



重要 パスワードの入力を求められたら、入力します。

stcli cluster upgrade [-h] [--status] [--info] [--components COMPONENTS {hxdp | ucs-fw}] [--location LOCATION] [--hypervisor-bundle HYPERVISOR-BUNDLE] [--vcenter-user VCENTERUSER] [--checksum CHECKSUM] [--ucsm-host UCSMHOST] [--ucsm-user UCSMUSER] [--ucsfw-version UCSFR-VERSION] [--ucsm5-fw-version UCSM5-FW-VERSION] [--dryrun]

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--checksum CHECKSUM	任意	インストーラのチェックサム。
--components COMPONENTS	必須	カンマ区切りのアップグレード コンポーネント {hxdp, ucs-fw, mgmt-only, hypervisor}
--dryrun	任意	クラスタのアップグレードが可能であることを検証します。
--info	任意	アップグレード情報を確認します。
--location LOCATION	任意	アップグレード パッケージの場所。コントローラ VM 上の /tmp を使用するのが最善です。 <ul style="list-style-type: none"> アップグレード パッケージをコンピュータにダウンロードします。 それを (scp または同様のツールを使用して)、アップグレード コマンドを実行しているアプライアンスのコントローラ VM にアップロードします。

Option	必須またはオプション	説明
--hypervisor-bundle HYPERVISOR-BUNDLE	任意	ESXi オフラインバンドルの場所。コントローラ VM 上の /tmp を使用するのが最善です。 <ul style="list-style-type: none"> • アップグレードパッケージをコンピュータにダウンロードします。 • それを (scp または同様のツールを使用して)、アップグレードコマンドを実行しているアプライアンスのコントローラ VM にアップロードします。
--status	任意	アップグレードステータスを確認します。
--ucsfw-version UCSFW-VERSION	任意	UCS サーバファームウェアターゲットバージョン。
--ucsm5-fw-version UCSM5-FW-VERSION	任意	M5 サーバの UCS サーバファームウェアターゲットバージョン。
--ucsm6-fw-version UCSM6-FW-VERSION	オプション	M6 サーバの UCS サーバファームウェアターゲットバージョン。
--ucsm-host UCSMHOST	任意	UCS Manager サーバのホスト名または IP アドレス。
--ucsm-user UCSMUSER	条件付きで必要です。	UCS Manager サーバのユーザ名。 UCS Manager コンポーネントをアップグレードする場合にのみ必要です。
--vcenter-user VCENTERUSER	条件付きで必要です。	vCenter 管理者のユーザ名。vCenter コンポーネントをアップグレードする場合にのみ必要です。 プロンプトが表示されたら vCenter 管理者パスワードを入力します。
--vcenter-password VCENTERPWD	条件付きで必要です。	vCenter サーバのパスワード。 vCenter コンポーネントをアップグレードする場合にのみ必要です。

コマンドデフォルト

追加のオプションを指定しないと、既存のストレージクラスタの設定を指定したものと見なされます。

使用上のガイドライン

stcli cluster upgrade コマンドでは、[] で囲まれた引数を 1 つ以上任意に指定できます。

[Cisco HyperFlex Systems アップグレードガイド](#)を参照してください。

stcli cluster upgrade-status コマンド

HX Data Platform ソフトウェアの最後の既知のアップグレードステータスを表示します。アップグレードが進行中の場合は、暫定的なステータスを表示します。アップグレードが完了すると、そのステータスには最新のアップグレードが表示されます。また、アップグレードが利用可能かどうかや、アップグレードを予定しているかどうかも表示します。

stcli cluster upgrade-status [-h]

コマンド デフォルト 指定できるオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli cluster upgrade-status コマンドを指定します。

次に例を示します。

```
# stcli cluster upgrade-status
Nodes up to date: [cs-002a(10.104.32.21), cs-002c(10.104.32.25), cs-002d(10.104.32.27)]
Cluster upgrade succeeded.
```

stcli cluster upgrade-kernel コマンド



(注) (このコマンドはサポートされません) .

stcli cluster version コマンド

ストレージクラスタ内の各ノードのバージョン番号を表示します。

stcli cluster version [-h]

コマンド デフォルト 指定できるオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli cluster version コマンドを実行します。

次に例を示します。

```
# stcli cluster version
Cluster version: 2.0(1a)
Node cs-002c version: 2.0(1a)
Node cs-002a version: 2.0(1a)
Node cs-002d version: 2.0(1a)
```

stcli cluster create-config コマンド

設定ファイルからストレージクラスタを作成します。



重要 プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

```
stcli cluster create-config [-h] [-f] [--dryrun] --vcenter-user VCENTERUSER [--esx-username ESXUSERNAME] config
```

表 2: 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
config	必須	設定ストレージクラスタ ファイル。
--dryrun	任意	入力パラメータを検証するだけです。
--esx-username ESXUSERNAME	任意	ESX 管理者のユーザ名。 プロンプトが表示されたら ESX 管理者パスワードを入力します。
-f, --force	任意	強制的にストレージクラスタを作成します。これは、ネットワーク設定エラーを無視し、提供された情報でクラスタを作成します。
--vcenter-user VCENTERUSER	任意	vCenter 管理者のユーザ名。 プロンプトが表示されたら vCenter 管理者パスワードを入力します。
コントローラ VM ルート ユーザー パスワード	任意	すべてのノードが同じパスワードである必要があります。 プロンプトが表示されたらコントローラ VM パスワードを入力します。

コマンドデフォルト

なし。必須および省略可能なパラメータのリストについては、表を参照してください。

使用上のガイドライン

stcli cluster create-config コマンドでは、適切な位置指定引数を指定します。

要件については VMware ESXi 向け Cisco HyperFlex System インストール ガイドを参照してください。

stcli cluster recreate コマンド

強制オプションで既存のストレージクラスタを再作成します。



重要 プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

stcli cluster recreate [-h] --vcenter-user VCENTERUSER

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vcenter-user VCENTERUSER	必須	vCenter 管理者のユーザ名。 プロンプトが表示されたら vCenter 管理者パスワードを入力します。
	コントローラ VM ルー トユーザーパスワード	任意	すべてのノードが同じパスワードである必要があります。 プロンプトが表示されたらコントローラ VM パスワードを入力します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli cluster recreate コマンドでは、位置指定引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli cluster reregister コマンド

既存のストレージクラスタの登録を vCenter 間で移動します。



重要

- このコマンドを実行するには、vCenter が稼働している必要があります。
- プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

stcli cluster reregister [-h] --vcenter-datacenter NEWDATACENTER --vcenter-cluster NEWVCENTERCLUSTER --vcenter-url NEWVCENTERURLIP [--vcenter-ssouurl NEWVCENTERSSOURL] --vcenter-user NEWVCENTERUSER

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vcenter-cluster NEWVCENTERCLUSTER	必須	新しい vCenter クラスタの名前。

Option	必須またはオプション	説明
--vcenter-datacenter NEWDATACENTER	必須	新しい vCenter データセンター名。
--vcenter-sso-url NEWVCENTERSSOURL	任意	新しい vCenter SSO サーバの URL。指定されない場合、--vcenter url から推測されます。
--vcenter-url NEWVCENTERURL	必須	新しい vCenter の URL、<vcentername>。ここで、<vcentername> には新しい vCenter の FQDN または IP を使用できます。
--vcenter-user NEWVCENTERUSER	必須	新しい vCenter 管理者のユーザー名。 プロンプトが表示されたら vCenter 管理者パスワードを入力します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン 必要に応じて、必須の引数とオプションの引数を [] で囲んで stcli cluster reregister コマンドに付加します。

ある vCenter サーバから別の vCenter サーバにストレージクラスタを移動するときに使用します。このタスクは、ストレージクラスタを移動し、新しい vCenter にストレージクラスタを登録し、古い vCenter からストレージクラスタを登録解除します。Cisco HyperFlex データプラットフォーム管理ガイドを参照してください。

stcli cluster get-data-replication-factor コマンド

ストレージクラスタのデータ レプリケーション係数を取得します。

stcli cluster get-data-replication-factor [-h]

コマンドデフォルト クラスタ設定を返します。

使用上のガイドライン stcli cluster get-data-replication-factor コマンドを実行します。

```
# stcli cluster get-data-replication-factor
3
```

stcli cluster get-cluster-access-policy コマンド

ストレージクラスタのクラスタ アクセス ポリシーを取得します。

stcli cluster get-cluster-access-policy [-h]

コマンド デフォルト クラスタ設定を返します。

使用上のガイドライン stcli cluster get-cluster-access-policy コマンドを入力します。

```
# stcli cluster get-cluster-access-policy
lenient
```

stcli cluster set-cluster-access-policy コマンド

ストレージクラスタのクラスタ アクセス ポリシーを設定します。

stcli cluster set-cluster-access-policy [-h] --name {strict | lenient}

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--name { strict , lenient }	必須です。	<p>ストレージクラスタのクラスタ アクセス ポリシーを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Strict : データ損失から保護するためのポリシーを適用します。 • Lenient : より長いストレージクラスタの可用性をサポートするためのポリシーを適用します。

コマンド デフォルト

stcli cluster set-cluster-access-policy コマンドラインを使用する場合にデフォルトはありません。HX Data Platform インストーラを使用すると、デフォルトは lenient になります。

使用上のガイドライン

ストレージクラスタの作成時に適用された設定を変更するために使用します。stcli cluster set-cluster-access-policy コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定します。

この例では、クラスタアクセスポリシーを strict に設定しています。このコマンドは、適用されている設定を返します。

```
# stcli cluster set-cluster-access-policy --name strict
strict
```

stcli cluster enable-data-write-thru コマンド

ストレージクラスタでデータのライト スルーを有効にします。

stcli cluster enable-data-write-thru [-h] [--id ID | --ip NAME]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--id ID	オプション。	ストレージクラスタ ノードの ID。ID は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。
	--ip NAME	オプション。	ストレージクラスタ ノードの IP アドレス。IP は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。

コマンド デフォルト ノードを指定しないと、デフォルトがストレージクラスタのすべてのノードに適用されます。

使用上のガイドライン `stcli cluster enable-data-write-thru` コマンドでは、[] で囲まれた位置指定引数を任意に指定できます。

stcli cluster disable-data-write-thru コマンド

ストレージクラスタでデータのライト スルーを無効にします。

stcli cluster disable-data-write-thru [-h] [--id ID | --ip NAME]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--id ID	オプション。	ストレージクラスタ ノードの ID。ID は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。
	--ip NAME	オプション。	ストレージクラスタ ノードの IP アドレス。IP は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。

コマンド デフォルト ノードを指定しないと、デフォルトがストレージクラスタのすべてのノードに適用されます。

使用上のガイドライン `stcli cluster disable-data-write-thru` コマンドでは、[] で囲まれた位置指定引数を任意に指定できます。

stcli cluster storage-summary コマンド

現在設定されているストレージクラスタについてストレージの概要を提供します。

stcli cluster storage-summary [-h] [--]

stcli cluster storage-summary [-h] [--uncached]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--uncached	(省略可)	現在設定されているストレージクラスタについてストレージの概要を提供します。
コマンド デフォルト	他に指定できるオプションはありません。		
使用上のガイドライン	stcli cluster storage-summary コマンドは、結果を表示するために実行します。		

```
# stcli cluster storage-summary
address: 10.104.48.28
name: cs002-cl
state: online
uptime: 0 days 19 hours 28 minutes 38 seconds
activeNodes: 3 of 3
compressionSavings: 83.2387622179
deduplicationSavings: 0.0
freeCapacity: 5.0T
healingInfo:
  inProgress: False
resiliencyInfo:
  messages:
    Storage cluster is healthy.
  state: 1
  nodeFailuresTolerable: 1
  cachingDeviceFailuresTolerable: 1
  persistentDeviceFailuresTolerable: 1
spaceStatus: normal
totalCapacity: 5.0T
totalSavings: 83.2387622179
usedCapacity: 55.0G
clusterAccessPolicy: lenient
dataReplicationCompliance: compliant
dataReplicationFactor: 2
```

使用上のガイドライン

stcli cluster storage-summary --uncached コマンドは、結果を表示するために実行します。

```
# stcli cluster storage-summary --uncached
admin:~$ stcli cluster storage-summary --uncached
address: 10.104.17.158
name: ucs305_12_cl
state: online
uptime: 6 days 0 hours 39 minutes 16 seconds
activeNodes: 4 of 5
compressionSavings: 81.16%
deduplicationSavings: 0.0%
freeCapacity: 8.3T
healingInfo:
  messages:
    Auto healing in progress, 53% completed.
  inProgress: True
  percentComplete: 53
  estimatedCompletionTimeInSeconds: 24
resiliencyInfo:
  messages:
```

```

        Storage cluster is unhealthy.
state: 2
nodeFailuresTolerable: 1
cachingDeviceFailuresTolerable: 2
persistentDeviceFailuresTolerable: 1
zoneResInfoList: None
spaceStatus: normal
totalCapacity: 8.4T
totalSavings: 81.16%
usedCapacity: 82.3G
zkHealth: online
clusterAccessPolicy: lenient
dataReplicationCompliance: non_compliant
dataReplicationFactor: 3

```

stcli cluster get-zone コマンド

ゾーンの詳細を取得します。Gets the zone details. このオプションは、ゾーンが有効になっているか確認するために使用されます。

stcli cluster get-zone

コマンド デフォルト ユーザー入力はありません。

使用上のガイドライン stcli cluster get-zone コマンドには追加のオプションがありません。

stcli cluster set-zone コマンド

ゾーンを有効または無効にします。

stcli cluster set-zone < --zone option_arg {1:enable, 0:disable}> [--numzones option_arg]

コマンド デフォルト オプション<--numzones>が指定されていない場合、storfs は起動時にクラスタのノードのアクティブ数に基づき、自動的に設定されるゾーン数を決定します。

使用上のガイドライン stcli cluster set-zone コマンドをゾーンオプションとともに使用して、ゾーンを有効または無効にします。

```
stcli cluster set-zone --zone 0 (to disable a zone)
```

```
stcli cluster set-zone --zone 1 (to enable and create default number of zones)
```

```
stcli cluster set-zone --zone 1 -numzones <integer-value> (to enable zones and create a specific number of zones)
```

```
stcli rebalance start (you must execute the rebalance start command after you enable and create zones)
```



警告 stcli rebalance コマンドのサポートは、シスコテクニカルサポートに限定されます。一般的な使用はサポートされていません。

stcli datastore コマンド

stcli datastore コマンド

ストレージクラスタ データストアの操作。

stcli datastore [-h] {list | create | info | update | delete | mount | unmount}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	create	いずれか1つが必須。	指定された名前とサイズでストレージクラスタ データストアを作成します。
	delete	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ データストアを削除します。
	info	セットのいずれかが必要。	指定されたストレージクラスタ データストアに関する情報を提供します。
	list	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ データストアをリストします。
	mount	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ データストアをマウントします。
	unmount	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ データストアをアンマウントします。
	update	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ データストアの名前やサイズを更新します。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli datastore コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli datastore list コマンド

ストレージクラスタ データストアをリストします。

stcli datastore list [-h]

コマンド デフォルト 指定できるオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli datastore list コマンドを実行し、[] で囲まれた引数を任意に追加できます。

stcli datastore create コマンド

指定された名前とサイズでストレージクラスタ データストアを作成します。

```
stcli datastore create [-h] --name NAME --size SIZE [--unit {kb | mb | gb | tb}] [--blocksize {8k,4k}]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--blocksize	オプション。	格納されるデータのブロック サイズ。すべてのデータストアでデフォルトは8Kです。VDI ワークロードでは、4K がデフォルトです。
	--name NAME	必須です。	ストレージクラスタ データストアの名前。
	--size SIZE	必須です。	ストレージクラスタ データストアのサイズ。
	--unit {kb,mb,gb,tb}	オプション。	サイズの単位。デフォルトは GB です。

コマンド デフォルト ID または NAME を指定する必要があります。デフォルトの測定単位は GB です。デフォルトのブロック サイズは 8 K です。

使用上のガイドライン stcli datastore create コマンドでは、必須のパラメータを両方とも指定するほか、必要に応じてパラメータを任意に指定できます。

stcli datastore info コマンド

指定されたストレージクラスタ データストアに関する情報を提供します。

```
stcli datastore info [-h] [--id ID | --name NAME]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--id ID	いずれか 1 つが必須。	データストアの ID。
	--name NAME	セットのいずれかが必要。	データストアの名前。

コマンド デフォルト なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli datastore info コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli datastore update コマンド

ストレージ クラスタ データストアの名前やサイズを更新します。

```
stcli datastore update [-h] [--id ID | --name NAME] [--newname NEWNAME] [--size SIZE] [--unit {kb | mb | gb | tb}]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--id ID	いずれか1つが必須。	データストアの ID。
	--name NAME	セットのいずれかが必要。	データストアの名前。
	--name NAME	オプション。	ストレージ クラスタ データストアの新しい名前。
	--size SIZE	オプション。	ストレージ クラスタ データストアの新しいサイズ。
	--unit {kb,mb,gb,tb}	オプション。	サイズの単位。デフォルトは GB です。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。デフォルトの単位は GB です。

使用上のガイドライン stcli datastore update コマンドでは、必須のパラメータを指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli datastore delete コマンド

ストレージ クラスタ データストアを削除します。

```
stcli datastore delete [-h] [--id ID | --name NAME]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--id ID	いずれか1つが必須。	データストアの ID。
	--name NAME	セットのいずれかが必要。	データストアの名前。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli datastore delete コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli datastore mount コマンド

ストレージクラスタ データストアをマウントします。

```
stcli datastore [-h] [--id ID | --name NAME]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--id ID	いずれか1つが必須。	データストアのID。
	--name NAME	セットのいずれかが必要。	データストアの名前。
コマンドデフォルト		なし。	いずれか1つのオプションが必須です。
使用上のガイドライン			stcli datastore mount コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli datastore unmount コマンド

ストレージクラスタ データストアをアンマウントします。

```
stcli datastore unmount [-h] [--id ID | --name NAME]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--id ID	いずれか1つが必須。	データストアのID。
	--name NAME	セットのいずれかが必要。	データストアの名前。
コマンドデフォルト		なし。	いずれか1つのオプションが必須です。
使用上のガイドライン			stcli datastore unmount コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli disk コマンド

stcli disk コマンド

ストレージクラスタ ディスクに対する操作。

```
stcli disk [-h] {list | add}
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	add	いずれか1つが必須。	検出された新しいディスクと指定されたブラックリスト登録済みのディスクをストレージクラスタに追加します。
	list	セットのいずれかが必要。	ノード内のストレージクラスタ ディスクをリストします。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli disk コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli disk list コマンド

ノード内のストレージクラスタ ディスクをリストします。

stcli disk list [-h] [--id ID | --name NAME] [--rescan]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--id ID	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタ ノードの ID。ID は stcli cluster info コマンドに一覧表示されています。local はローカルノードに対してデフォルトです。
	--ip NAME	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタ ノードの IP アドレス。IP は stcli cluster info コマンドに一覧表示されています。localhost はローカルノードに対してデフォルトです。
	--rescan	オプション。	ディスクを再スキャンします。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。オプションのデフォルトは、ID の場合は local、NAME の場合は localhost です。

使用上のガイドライン stcli disk list コマンドでは、位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



(注) ディスクを取り外してもクラスタ概要情報に表示され続ける場合があります。情報を更新するには、HX クラスタを再起動します。

stcli disk add コマンド

検出された新しいディスクと指定されたブラックリスト登録済みのディスクをストレージクラスタに追加します。

```
stcli disk add [-h] [--id ID | --name NAME] --blacklisted-disk-ids [DISKIDS [DISKIDS ...]]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--id ID	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタ ノードの ID。
	--name NAME	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ ノードの名前。
	--blacklisted-disk-ids [DISKIDS [DISKIDS ...]]	必須です。	ストレージクラスタに追加するブラックリスト登録済みのディスク。ID が複数ある場合はスペースで区切ります。

コマンドデフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli disk add コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかと必須の --blacklisted-disk-ids オプションを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp (data protection) コマンド

stcli dp コマンド

レプリケーションとディザスタ リカバリのためのデータ保護 (DP) コマンドです。

```
stcli dp [-h] (vm | group | peer | schedule)
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	group	いずれか1つが必須。	データ保護グループのスナップショット操作。
	peer	セットのいずれかが必要。	サイト レプリケーション ペアリング操作。
	schedule	セットのいずれかが必要。	送信側クラスタのクラスタ全体で、レプリケーションを一時停止してから再開します。
	vm	セットのいずれかが必要。	レプリケーション スナップショット操作による VM データ保護。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli dp コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm コマンド

保護グループを介してではなく、仮想マシンに個別に適用されるHXデータプラットフォームディザスタリカバリコマンドとネイティブのレプリケーションコマンド。

stcli dp vm [-h] {snapshot | add | list | info | delete | movein | moveout | schedule | prepareReverseProtect | reverseProtect | failover | testfailover | prepareFailover | migrate | hxtask}

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
snapshot	Unsupported	HX リリース 3.5(2g) 以降、スナップショットコマンドのサポートは、Cisco Tech サポートのみに限定されています。一般的な使用はサポートされていません。
add	いずれか1つが必須。	仮想マシンにデータ保護を追加します。
list	セットのいずれかが必要。	データが保護されている仮想マシンをリストします。
info	セットのいずれかが必要。	データが保護されている仮想マシンに関する情報を表示します。
delete	セットのいずれかが必要。	仮想マシンからデータ保護を削除します。
movein	セットのいずれかが必要。	データ保護仮想マシンを保護グループに移動します。
moveout	セットのいずれかが必要。	保護グループからデータ保護仮想マシンを移動します。
schedule	セットのいずれかが必要。	仮想マシンのデータ保護をスケジュールします。
prepareReverseProtect	いずれか1つが必須。	指定仮想マシンの逆の保護アクションを準備します。
reverseProtect	セットのいずれかが必要。	指定の仮想マシンの逆の保護アクションを実行します。
failover	セットのいずれかが必要。	復元 HX ストレージ クラスタ から個別仮想マシンをフェールオーバーします。

Option	必須またはオプション	説明
testfailover	セットのいずれかが必要。	復元 HX ストレージクラスタから個々の仮想マシンの復元をテストするためのものです。
prepareFailover	セットのいずれかが必要。	指定仮想マシンのフェールオーバーアクションを準備します。
migrate	セットのいずれかが必要。	指定の仮想マシンを管理します。
hxtask	セットのいずれかが必要。	動作に関連するデータ保護。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli dp vm コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm snapshot コマンド

データ保護仮想マシンのレプリケーション スナップショット操作。



(注) このコマンドとそのサブコマンドはサポートされません。

stcli dp vm snapshot [-h] {create | replicate | list | info | delete}

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
create	いずれか1つが必須。	仮想マシンのレプリケーション スナップショットを作成します。
replicate	セットのいずれかが必要。	仮想マシンのレプリケーション スナップショットをレプリケートします。
list	セットのいずれかが必要。	このクラスタで利用できるレプリケーション スナップショットをリストします。
info	セットのいずれかが必要。	レプリケーション スナップショットの情報を表示します。
delete	セットのいずれかが必要。	指定されたレプリケーション スナップショットを削除します。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli dp vm snapshot コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm snapshot create コマンド

仮想マシンのレプリケーション スナップショットを作成します。

stcli dp vm snapshot create [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}] --snapname SNAPSHOTNAME [--desc DESCRIPTION] [--quiesce] [--offline]

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
--snapname SNAPSHOTNAME	必須です。	レプリケーションスナップショットの名前。
--desc DESCRIPTION	オプション。	レプリケーションスナップショットの説明。
--quiesce	オプション。	レプリケーションの前に VMware ツールを使用して VM を休止するかどうか。レプリケーショングループ内のすべての VM に VMware ツールをインストールする必要があります。
--Offline	任意	オフラインスナップショットを撮影します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm snapshot create コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm snapshot replicate コマンド

仮想マシンレプリケーション スナップショットをリモート クラスタにレプリケートします。

stcli dp vm snapshot replicate [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}] --snapshot-id SNAPSHOT-ID --outgoing OUTGOING

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	--snapshot-id SNAPSHOTID	必須です。	レプリケートする VM のスナップショット ID。
	--outgoing OUTGOING	必須です。	データがレプリケートされる発信/ターゲット クラスタの ID。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp vm snapshot replicate` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定し、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm snapshot list コマンド

このクラスタで利用できるレプリケーション スナップショットをリストします。

stcli dp vm snapshot list [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp vm snapshot list` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定し、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm snapshot info コマンド

VM スナップショットの詳細を表示します。

stcli dp vm snapshot info [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}] --snapshot-id SNAPSHOTID

stcli dp vm snapshot delete コマンド

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	--snapshot-id SNAPSHOTID	必須です。	VM のスナップショット ID。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm snapshot info コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm snapshot delete コマンド

指定されたスナップショットを削除します。

stcli dp vm snapshot delete [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}] --snapshot-id SNAPSHOTID

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	--snapshot-id SNAPSHOTID	必須です。	削除する VM のスナップショット ID。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm snapshot delete コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm add コマンド

仮想マシンでデータ保護を追加します。

Cisco HyperFlex リリース 5.0(2a) 以前のコマンド構文。

stcli dp vm add [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter では、仮想マシンの固有 VMBIOSUUID を指定します。
	--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 か仮想マシンの ID タイプ (vmbiosuuid)。vCenter では、固有仮想マシン VMBIOSUUID を指定します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン このコマンドは、Cisco HyperFlex リリース 5.0(2a) 以前でのみサポートされています。
stcli dp vm add コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm list コマンド

データ保護を備えた仮想マシンをリストします。表示内容には、レプリケーションスケジュールが含まれています。

stcli dp vm list [-h] [--vmname VMNAME] [--vmid VMID] [--brief]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vmname VMNAME	オプション。	指定された名前に一致する保護された仮想マシンをリストします。
	--vmid VMID	オプション。	耐用年数全体で、VM を追跡するために使用するために指定された内部の元の VM ID に一致する仮想マシンで、コマンドを実行します。
	--brief	オプション。	概要のみを表示します。

コマンド デフォルト デフォルトでは、保護されたすべての仮想マシンをリストします。

使用上のガイドライン stcli dp vm list コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

次の例では、保護された仮想マシンの概要をリストしています。

```
# stcli dp vm list --brief
vmInfo:
-----
name: dslvm-2
uuid: 423f11c4-20c9-893b-0dd8-2a0ad59ad634
-----
name: dslvm-1
uuid: 423f1d85-990a-4e06-ebef-a215c0ec4cf8
-----
```

stcli dp vm info コマンド

データ保護仮想マシン情報をリストします。

```
stcli dp vm info [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter では、固有仮想マシン VMBIOSUUID を指定します。
	--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID のタイプです (vcmoid、vmbiosuuid)。vCenter では、固有仮想マシン VMBIOSUUID を指定します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm info コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm delete コマンド

仮想マシンからデータ保護を削除します。

```
stcli dp vm delete [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]
```


構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter では、固有仮想マシン VMBIOSUUID を指定します。
	--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID タイプ (vmbiosuuid)。vCenter では、固有仮想マシン VMBIOSUUID を指定します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm delete コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm movein コマンド

データ保護仮想マシンを保護グループに移動します。

stcli dp vm movein [-h] --vmids VMIDS [VMIDS ...] --groupid GROUPID

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。
	--groupid GROUPID	オプション。	スタンドアロン仮想マシンを移動するグループの ID。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm movein コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm moveout コマンド

データ保護仮想マシンを保護グループに移動します。

stcli dp vm moveout [-h] (--vmids VMIDS [VMIDS ...] | --allVMs) --groupid GROUPID

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。
	--allVMs	オプション。	グループから仮想マシンを移動します。
	--groupid GROUPID	オプション。	スタンドアロン仮想マシンを移動するグループの ID。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン

- stcli dp vm moveout コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。
- allVMs はセカンダリでのみ実行できます。allVMs は、リカバリに備えて、すべての VM をグループから移動します。このオプションは、グループのすべての VM でリカバリを実行する場合にのみ使用します。allVMs オプションは廃止予定であり、将来のリリースでは削除されます。

stcli dp vm schedule コマンド

HyperFlex データ保護 VM スケジュール操作。

stcli dp vm schedule [-h] {set,get}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--set	いずれか1つが必須。	VM スケジュール操作を設定します。
	--get	いずれか1つが必須。	VM スケジュールを取得します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm schedule コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm schedule get コマンド

VM レプリケーション スケジュール情報を取得します。

stcli dp vm schedule get [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm schedule get コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm schedule set コマンド

VM レプリケーション スケジュールを設定します。

```
stcli dp vm schedule set [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}] --replication-interval
REPLICATIONINTERVALINMINUTES [--start-time REPLICATIONSTARTTIME]
[--quiesce-using-tools] [--outgoing OUTGOING]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES	必須です。	分単位のレプリケーション間隔
	--start-time REPLICATIONSTARTTIME	任意	mm/dd/yy_HH_MM 形式でのレプリケーション開始時刻。
	--quiesce-using-tools	任意	レプリケーションの前に VMware ツールを使用して VM を休止するかどうか。レプリケーショングループ内のすべての VM に VMware ツールをインストールする必要があります。
	--outgoing OUTGOING	任意	データがレプリケートされる発信/ターゲット クラスタの ID。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm schedule set コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm prepareReverseProtect コマンド

指定仮想マシンの逆の保護アクションを準備します。

stcli dp vm prepareReverseProtect [-h] --vmid VMID [--force]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。
	--force	オプション。	引数を検証することなく、逆の保護準備を実行します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm prepareReverseProtect コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm failover コマンド

リカバリ HX ストレージクラスタから個々の仮想マシンをフェールオーバーするためのものです。リカバリ HX ストレージクラスタは、仮想マシンを保護するレプリケーションペアのターゲットクラスタです。

このコマンドは、status コマンドによるモニタに使用されるジョブ ID を出力します。

stcli dp vm failover [-h] --vmid VMID [--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID | --resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME] [--folder-id FOLDER-ID | --folder-name FOLDER-NAME] [--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]] [--poweron] [--force]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された ID のリソースプールに配置します。
	--resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された名前のリソースプールに配置します。
	--folder-id FOLDER-ID	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された ID のフォルダに配置します。

Option	必須またはオプション	説明
--folder-name FOLDER-NAME	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された名前のフォルダに配置します。
--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]	オプション。	送信元ネットワークを宛先ネットワークにマップします。形式は <code>source_network:destination_network</code> です。次に例を示します。 <code>--network-mapping "source_network1:destination_network1", "source_network2:destination_network2"</code>
--poweron	オプション。	リカバリ後に VM の電源をオンにします
--force	オプション。	引数を検証せずにリカバリを実行します

コマンドデフォルト

場所は、デフォルトではコマンド実行パスになります。

使用上のガイドライン

stcli dp vm failover コマンドでは、2つのダッシュ (-) で始まる必須の引数を指定するか、または任意で、[] で囲まれた引数を指定します。

stcli dp vm testfailover コマンド

リカバリ HX ストレージクラスタからの、個々の仮想マシンに対するリカバリをテストします。リカバリ HX ストレージクラスタは、仮想マシンを保護するレプリケーションペアのターゲット クラスタです。

このコマンドは、status コマンドによるモニタに使用されるジョブ ID を出力します。

```
stcli dp vm testfailover [-h] --vmid VMID [--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID |
--resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME] [--folder-id FOLDER-ID | --folder-name
FOLDER-NAME] [--test-network TESTNETWORK] [--network-mapping NETWORKMAPPING
[NETWORKMAPPING ...]] [--poweron] [--force] [--newname NEWNAME]
```

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID にマッチする仮想マシンを一覧表示します。
--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された ID のリソースプールに配置します。
--resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された名前のリソースプールに配置します。
--folder-id FOLDER-ID	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された ID のフォルダに配置します。

Option	必須またはオプション	説明
--folder-name FOLDER-NAME	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された名前のフォルダに配置します。
--test-network TESTNETWORK	オプション。	テストリカバリに使用するネットワークをテストします。すべてのソースネットワークは、リカバリ後にこのネットワークに割り当てられます。
--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]	オプション。	送信元ネットワークを宛先ネットワークにマップします。形式は <code>source_network:destination_network</code> です。次に例を示します。 <code>--network-mapping</code> <code>"source_network1:destination_network1","source_network2:destination_network2"</code>
--poweron	(省略可)	リカバリ後に VM をオンにします
--force	(省略可)	引数を検証することなく、強制的にリカバリを実行します。
--newname NEWNAME	(省略可)	テストリカバリの行われる VM の新しい名前です。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、テストリカバリは `HxTestRecovery` フォルダ内の同じ名前の VM をリカバリします。

使用上のガイドライン

`stcli dp vm testfailover` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定するか、または任意で、`[]` で囲まれた引数を指定します。

stcli dp vm prepareFailover コマンド

指定仮想マシンのフェールオーバーアクションを準備します。

stcli dp vm prepareFailover [-h] --vmid VMID [--force]

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (<code>vmbiosuuid</code>)。vCenter を使用している場合は、個別の仮想マシンの <code>VMBIOSUUID</code> を指定します。
--force	オプション。	引数を検証することなく、逆のフェールオーバー準備を実行します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm prepareFailover コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm migrate コマンド

指定の仮想マシンを管理します。

```
stcli dp vm migrate [-h] --vmid VMID [--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID | --resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME] [--folder-id FOLDER-ID | --folder-name FOLDER-NAME] [--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]] [--poweron]
```

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--vmid VMID	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。 仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。
--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID	オプション。	回復済みの仮想マシンが配置されるリソースプール ID。
--resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME	オプション。	回復済みの仮想マシンが配置されるリソースプール名。
--folder-id FOLDER-ID	オプション。	回復済みの仮想マシンが配置されるフォルダ ID。
--folder-name FOLDER-NAME	オプション。	回復済みの仮想マシンが配置されるフォルダ名。
--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]	オプション。	「Source Network":"Destination Network」という形式による、送信元から宛先までのネットワーク マップ。
--poweron	オプション。	回復後に仮想マシンの電源をオンにします。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm migrate コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp vm hxtask コマンド

動作に関連するデータ保護。

```
stcli dp vm hxtask [-h] [--vmid VMID] [--id ID] [--name NAME][--state
{new,starting,running,suspended,shutting_down,completed,terminated,cancelled,exception,stalled}]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<code>--vmid VMID</code>	必須	保護グループに追加する仮想マシンの ID。
	<code>--id ID</code>	任意	仮想マシンの ID。
	<code>--name NAME</code>	オプション。	レプリケーション ネットワークに割り当てられている参照名。 (注) 小文字で始まる hx タスク コマンドだが、 <code>--name</code> のフィルタリングは大文字から始まります。 使用例 <code>--testFailover</code> の代わりに <code>TestFailover</code> 。 フィルタされる名前は次のとおりです。 TestFailover フェールオーバー PrepareReverseProtect PrepareFailover ReverseProtect 移行
	<code>--state</code>	オプション。	レプリケーション プロセスの状態: new 起動 実行 suspended shutting_down 「completed (完了)」 終了された キャンセル済み exception stalled

コマンド デフォルト なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli dp vm hxtask コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するか、または任意で、[] で囲まれた引数を指定します。

stcli dp group コマンド

個々の仮想マシンではなく仮想マシンの保護グループに適用されるHXデータプラットフォーム ディザスタ リカバリ コマンドとネイティブのレプリケーション コマンド。

stcli dp group [-h] {add | list | delete | vm | snapshot | schedule}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	add	いずれか1つが必須。	データ保護グループを追加します。
	list	セットのいずれかが必要。	データ保護グループのリスト。
	delete	セットのいずれかが必要。	データ保護グループを削除します。
	vm	セットのいずれかが必要。	データ保護グループ内の VM タスク。
	snapshot	セットのいずれかが必要。	データ保護グループ内のスナップショット操作。 (このコマンドはサポートされません)
	schedule	セットのいずれかが必要。	データ保護グループのレプリケーションをスケジューリングします。

コマンドデフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli dp group コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



(注) HX リリース 3.5(2g) 移行、<command name> コマンドのサポート Cisco Tech サポートのみに限定されています。一般的な使用はサポートされていません。

stcli dp group add コマンド

データ保護グループを追加します。

Cisco HyperFlex リリース 5.0(2a) 以前のコマンド構文。

stcli dp group add [-h] --groupname GROUPNAME

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--groupname GROUPNAME	必須。	保護グループの名前。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン このコマンドは、Cisco HyperFlex リリース 5.0(2a) 以前でのみサポートされています。
stcli dp group add コマンドでは、2つのダッシュ (-) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group list コマンド

データ保護グループの設定およびスケジュールをリストします。

stcli dp group list [-h] [--groupname GROUPNAME] [--groupid GROUPID]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--groupname GROUPNAME	オプション。	保護グループを付与されているグループ名とともにリストします。
	--groupid GROUPID	オプション。	保護グループを付与された ID とともにリストします。
	--brief	オプション。	概要のみを表示します。

コマンド デフォルト すべてのデータ保護グループをリストします。

使用上のガイドライン stcli dp group list コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

この例では、データ保護グループをリストしています。

```
# stcli dp group list
clusterEr:
  type: cluster
  id: 21038104951568023:6930626691413900957
  name: source17-2.5.1a
vmGroupState: active
vmGroupEr:
  type: dp_vmgroup
  id: 4de5d40f-82d6-40f6-9425-e4942bdd9be9
  name: group1
members:
-----
  idtype: 2
  type: dp_vm
  id: 423f38fd-9754-a25c-0d60-1ddacacaac60
-----
  idtype: 2
```

```

type: dp_vm
id: 423fc732-4841-3a0a-8d75-6c7bdcf8de67
-----
schedules:
  replicationSchedule:
    targetClusterEr:
      type: cluster
      id: 1279191129902762643:7329250794747596775
      name: target17-2.5.1a
    enabled: True
    mode: 2
    startTime: 07/19/17_20:24
    intervalInMinutes: 15

```

stcli dp group delete コマンド

指定されたデータ保護グループを削除します。

stcli dp group delete [-h] --groupid GROUPID

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--groupid GROUPID	必須。	保護グループの ID。 保護グループを削除するには、すべての仮想マシンを削除する必要があります。
コマンドデフォルト		なし。	
使用上のガイドライン	stcli dp group delete コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。		

stcli dp group vm コマンド

Hyperflex データ保護グループ VM 操作。

stcli dp group vm [-h] {add | list | delete}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	add	いずれか1つが必須。	VM をデータ保護グループに追加します。
	list	セットのいずれかが必要。	データ保護グループ内の VM をリストします。
	delete	セットのいずれかが必要。	データ保護グループから VM を削除します。
コマンドデフォルト		なし。いずれか1つのオプションが必須です。	

使用上のガイドライン stcli dp group vm コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group vm add コマンド

VM をデータ保護グループに追加します。

stcli dp group vm add [-h] --groupid GROUPID --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--groupid GROUPID	必須。	VM が存在するデータ保護グループの ID。
	--vmid VMID	必須です。	保護グループに追加する仮想マシンの ID。
	--vmidtype {VMBIOSUUID}	オプション。	保護グループに追加する仮想マシンの ID タイプ。 VCMOID オプションはサポートされません。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp group vm add コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group vm list コマンド

データ保護グループに含まれている VM をリストします。

stcli dp group vm list [-h] --groupid GROUPID

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--groupid GROUPID	必須。	VM が存在するデータ保護グループの ID。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp group vm list コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group schedule コマンド

Hyperflex □□□□□□ □□□□□□□□□□

stcli dp group schedule [-h] {set | get}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	set	いずれか1つが必須。	データ保護グループのレプリケーションスケジュールを設定します。
	get	セットのいずれかが必要。	データ保護グループのレプリケーションスケジュールを取得します。

コマンドデフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli dp group schedule コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group schedule get コマンド

データ保護グループのレプリケーションスケジュール情報をリストします。

stcli dp group schedule get [-h] --groupid GROUPID [--outgoing OUTGOING]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--groupid GROUPID	必須。	VM が存在するデータ保護グループの ID。
	--outgoing OUTGOING	オプション。	データがレプリケートされる発信/ターゲットクラスタの ID。

コマンドデフォルト 発信クラスタは、ペアリングされたリモートクラスタです。

使用上のガイドライン stcli dp group schedule get コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp group schedule set コマンド

データ保護グループのレプリケーションスケジュールを設定します。

stcli dp group schedule set [-h] --groupid GROUPID --replication-interval REPINTERVALINMINS [--start-time REPSTARTTIME] [--quiesce-using-tools] [--outgoing OUTGOING]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--groupid GROUPID	必須。	VM が存在するデータ保護グループの ID。
	--replication-interval REPINTERVALINMINS	必須です。	分単位のレプリケーション間隔（頻度）。ここでは、VM をターゲットクラスタにレプリケートする頻度を設定します。

Option	必須またはオプション	説明
--start-time REPSTARTTIME	オプション。	mm/dd/yy_HH_MM形式でのレプリケーション開始時刻。最初のレプリケーションをいつ開始するかを指定します。
--quiesce-using-tools	オプション。	レプリケーションの前に VMware ツールを使用して VM を休止するかどうか。レプリケーショングループ内のすべての VM に VMware ツールをインストールする必要があります。
--outgoing OUTGOING	オプション。	データがレプリケートされる発信/ターゲットクラスタの ID。

コマンド デフォルト 開始時刻は、コマンドの実行直後です。休止は設定されていません。発信クラスタは、ペアリングされたリモートクラスタです。

使用上のガイドライン stcli dp group schedule set コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer コマンド

レプリケーションペアのリモート（ピア）クラスタでの Hyperflex データ保護操作。

stcli dp peer [-h] {get | add | list | query | edit | datastore | delete | forget | schedule}

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
get	いずれか1つが必須。	ピアクラスタの詳細を取得します。
add	セットのいずれかが必要。	指定された入力を使用してペアを追加します。
list	セットのいずれかが必要。	すべてのペアを表示します。
query	セットのいずれかが必要。	ペア詳細を取得するためにペアに問い合わせます。
edit	セットのいずれかが必要。	ピア管理 IP のペアの説明を編集します。
datastore	セットのいずれかが必要。	既存のペアでマップされたデータストアを編集します。

Option	必須またはオプション	説明
delete	セットのいずれかが必要。	レプリケーション ペアを削除します。
forget	セットのいずれかが必要。	指定された入力を使用してピアを削除します。
schedule	セットのいずれかが必要。	ピア スケジュール操作。

コマンドデフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン `stcli dp peer` コマンドでは、`{ }` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer get コマンド

ピア クラスタの詳細をリストします。



(注) プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

stcli dp peer get [-h] --mgmtIp MGMTIP --username USERNAME

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--mgmtIp MGMTIP	必須。	ピアクラスタの管理 IP。
	--username USERNAME	必須です。	ピアクラスタのユーザ名。 プロンプトが表示されたら、ピア クラスタのユーザー パスワードを入力します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp peer get` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer add コマンド

指定された入力を使用してレプリケーション ペアを追加します。



注目 プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。



- (注) このコマンドは、HX Connect のレプリケーションペアを設定しながら自動的に完了する検証プロセスと同様に、テストリモートレプリケーションネットワークを取り消したり、検証したりすることはしません。

stcli dp peer add [-h] --name NAME --description DESCRIPTION --mgmtIp MGMTIP --username USERNAME

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--name NAME	必須。	クラスタ ペアの名前。
--description DESCRIPTION	必須です。	クラスタ ペアの説明。
--mgmtIp MGMTIP	必須。	ピアクラスタの管理 IP。
--username USERNAME	必須です。	ピアクラスタのユーザ名。 プロンプトが表示されたら、ピア クラスタのパスワードを入力します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer add コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer list コマンド

すべてのレプリケーションペアを表示します。

stcli dp peer list [-h]

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer list コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer query コマンド

ペアの詳細についてレプリケーションペアに問い合わせます。

stcli dp peer query [-h] --name NAME

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--name NAME	必須。	クラスタ レプリケーション ペアの名前。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer query コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer edit コマンド

ペアの説明またはピア管理 IP を編集します



(注) (このコマンドはサポートされません)

```
stcli dp peer edit [-h] --name NAME [--description DESCRIPTION] [--mgmtIp MGMTIP] --username USERNAME --password PASSWORD
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--name NAME	必須。	クラスタ ペアの名前
	--description DESCRIPTION	必須	クラスタ ペアの説明
	--mgmtIp MGMTIP	必須	ピアクラスタの管理 IP
	--username USERNAME	必須	ピアクラスタのユーザ名 プロンプトが表示されたら、ピア クラスタのユーザー パスワードを入力します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer edit コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer datastore コマンド

既存のレプリケーション ペアでマップされたデータストアを編集します。



(注) このコマンドは、HX Connect のペアを編集しながら自動的に完了する検証プロセスと同様に、テストリモートレプリケーションネットワークを取り消したり、検証したりすることはできません。

```
stcli dp peer datastore [-h] {edit | add | delete | editSchedule | editstatus | forget | }
```

stcli dp peer datastore add コマンド

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	edit	いずれか1つが必須。	既存のペアでマップされたデータストアを編集します。
	add	セットのいずれかが必要。	既存のクラスタ ペアにデータストア マッピングを追加する
	delete	セットのいずれかが必要。	既存のクラスタ ペアのデータストア マッピングを削除する
	editSchedule	セットのいずれかが必要。	既存のクラスタ ペアのデータストア マッピングのスケジュールを編集します。
	editstatus	セットのいずれかが必要。	データストア編集ジョブのステータス。
	forget	セットのいずれかが必要。	編集中のデータストアペアを削除する。データストア ペアを削除する

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli dp peer datastore コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer datastore add コマンド

既存のレプリケーション ペアでマップされたデータストアを追加します。

```
stcli dp peer datastore add [-h] --name NAME --localDs LOCALDS --peerDs PEERDS [--storageOnly]
[--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES] [--backupOnly] [--quiesce]
[--fallbackToCrashConsistent]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	-h	オプション。	ヘルプ メッセージを表示します
	--name NAME	必須。	クラスタ ペアの名前。
	--localDs LOCALDS	必須です。	ローカル クラスタのデータストア名。
	--peerDs PEERDS	必須です。	Peer クラスタのデータストア名。
	--storageOnly	必須です。	SRM または外部 DR オークストレーションは、入力データストア ペアを管理します。

Option	必須またはオプション	説明
--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES	必須です。	分単位のレプリケーション間隔
--backupOnly	必須です。	入力データストア ペアは、バックアップにのみ使用されます。
--quiesce	必須です。	backupOnly がセットされると、このフラグは休止を設定するかどうかを指定します。
--fallbackToCrashConsistent	必須です。	backupOnly と quiesce が設定されていて、VM ツールのチェックが失敗した場合、このフラグは、クラッシュ コンシステント スナップショットへのフォールバックが優先されるかどうかを指定します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp peer datastore add` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer datastore edit コマンド

既存のレプリケーション ペアでマップされたデータストアを編集します。

```
stcli dp peer datastore edit [-h] --name NAME --datastore DATASTORE [--storageOnly]
[--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES] [--backupOnly] [--quiesce]
[-fallbackToCrashConsistent]
```

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--name NAME	必須。	クラスタ ペアの名前。
--datastore DATASTORE	必須です。	データストアは、操作とペアリングされます。フォーマットは次のとおりです。 local_ds:remote_ds:OPERATION 操作の選択：ADD、DELETE。

Option	必須またはオプション	説明
--storageOnly	必須です。	SRM または外部 DR オーケストレーションは、入力データストアペアを管理します。
--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES	必須です。	分単位のレプリケーション間隔
--backupOnly	必須です。	入力データストア ペアは、バックアップにのみ使用されます。
--quiesce	必須です。	backupOnly がセットされると、このフラグは休止を設定するかどうかを指定します。
--fallbackToCrashConsistent	必須です。	backupOnly と quiesce が設定されていて、VMツールのチェックが失敗した場合、このフラグは、クラッシュ コンシステント スナップショットへのフォールバックが優先されるかどうかを指定します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer datastore edit コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

この例では、レプリケーションペアに関連付けられているデータストアを変更しています。

```
# stcli dp peer datastore edit
<local ds 1>:<peer ds 1>:ADD,<local ds 2>:<peer ds 2>:DELETE,..
```

stcli dp peer datastore delete コマンド

既存のレプリケーションペアのデータストアのマッピングを削除します。

```
stcli dp peer datastore delete [-h] --name NAME --localDs LOCALDS --peerDs PEERDS
[--storageOnly] [--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES] [--backupOnly]
[--quiesce] [--fallbackToCrashConsistent]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	-h	オプション。	ヘルプメッセージを表示します
	--name NAME	必須。	クラスタ ペアの名前。
	--localDs LOCALDS	必須です。	ローカル クラスタのデータストア名。
	--peerDs PEERDS	必須です。	ピアクラスタのデータストア名。
	--storageOnly	必須です。	SRM または外部 DR オークストレーションは、入力データストアペアを管理します。
	--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES	必須です。	分単位のレプリケーション間隔
	--backupOnly	必須です。	入力データストア ペアは、バックアップにのみ使用されます。
	--quiesce	必須です。	backupOnly がセットされると、このフラグは休止を設定するかどうかを指定します。
	--fallbackToCrashConsistent	必須です。	backupOnly と quiesce が設定されていて、VM ツールのチェックが失敗した場合、このフラグは、クラッシュ コンシステント スナップショットへのフォールバックが優先されるかどうかを指定します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer datastore delete コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer datastore editSchedule コマンド

既存のレプリケーション ペアでマップされたデータストアのスケジュールを編集します。

```
stcli dp peer datastore editSchedule [-h] --name NAME --localDs LOCALDS --peerDs PEERDS
[--storageOnly] [--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES] [--backupOnly]
[--quiesce] [--fallbackToCrashConsistent]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	-h	オプション。	ヘルプメッセージを表示します
	--name NAME	必須。	クラスタ ペアの名前。
	--localDs LOCALDS	必須です。	ローカルクラスタのデータストア名
	--peerDs PEERDS	必須です。	ピアクラスタのデータストア名
	--storageOnly	必須です。	SRM または外部 DR オークストレーションは、入力データストアペアを管理します。
	--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES	必須です。	分単位のレプリケーション間隔
	--backupOnly	必須です。	入力データストア ペアは、バックアップにのみ使用されます。
	--quiesce	必須です。	backupOnly がセットされると、このフラグは休止を設定するかどうかを指定します。
	--fallbackToCrashConsistent	必須です。	backupOnly と quiesce がセットされると、VM ツール チェックが機能不全になり、このフラグは Crash Consistent スナップショットへのフォールバックを設定するかどうかを指定します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer datastore editSchedule コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp datastore editstatus コマンド

レプリケーション ペアのデータストア マッピング変更のステータスを表示します。

stcli dp peer datastore editstatus [-h] [--jobid JOBID]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--jobid JOBID	オプション。	データストア変更タスクのジョブ ID。

コマンドデフォルト ジョブIDのデフォルトでは、すべてのデータストア編集のステータスがすべて表示されます。

使用上のガイドライン `stcli dp peer datastore editstatus` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

この例では、レプリケーションペアに関連付けられているデータストアを変更しています。

```
# stcli dp peer datastore editstatus
[<jobid>,<jobid>...,<jobid>]
```

stcli dp peer datastore forget コマンド

編集中のデータストア ペアを削除します。データストアのペアは忘れてください。

```
stcli dp peer datastore forget [-h] --name NAME [ --all [editPairOnly]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<code>-h</code>	オプション。	ヘルプメッセージを表示します
	<code>--name NAME</code>	必須。	クラスタ ペアの名前。
	<code>--all</code>	必須です。	すべてのクラスタ ペアに対してこのアクションを実行します。
	<code>--editPairOnly</code>	必須です。	設定されている場合、既存のデータストア ペアリングを維持しながら、進行中のデータストア ペア編集のみを忘れます。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp peer datastore forget` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp schedule コマンド

データ保護スケジュール操作。

```
stcli dp schedule [-h] {pause | resume | status}
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	pause	いずれか1つが必須。	レプリケーションを一時停止します。リモートクラスタへのレプリケーション スナップショット ビットの送信を停止します。
	resume	セットのいずれかが必要。	レプリケーションを再開します。リモートクラスタへのレプリケーション スナップショット ビットの送信を再開します。
	status	セットのいずれかが必要。	スケジューラの状態のクエリを実行します。これはデータベースの状態であり、スケジュールされたイベントの状態ではありません。スケジューラがフルであることを意味するものではありません。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli dp schedule コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer delete コマンド

レプリケーション ペアからピアを削除します。



重要 プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

stcli dp peer delete [-h] --name NAME --username USERNAME [--mgmtIp MGMTIP]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--name NAME	必須。	クラスタ レプリケーション ペアの名前。
	--username USERNAME	必須です。	ピアクラスタのユーザ名。 プロンプトが表示されたら、ピア クラスタのユーザー パスワードを入力します。
	--mgmtIp MGMTIP	オプション。	ピアクラスタの管理 IP。

コマンド デフォルト 管理 IP は、現在関連付けられているピアと見なされます。

使用上のガイドライン stcli dp peer delete コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp peer forget コマンド

これは、ピア間のペアリング（ソース クラスタとターゲット クラスタ）を解除します。別のクラスタとペアリングするために各クラスタを解放します。

stcli dp peer forget [-h] [--name NAME] [--all]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--all	いずれか1つが必須。	すべての部分的なペアと正常にペアになったクラスタの、ピア間のペアリングを解除します。
	--name NAME	セットのいずれかが必要。	指定された名前のクラスタ ペアのために、ピア間のペアリング（ソースクラスタとターゲットクラスタ）を解除します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer forget コマンドでは、2つのダッシュ（--）で始まる必須の引数を指定するほか、[]で囲まれた引数を任意に指定できます。



- (注) NR/NFS のクリーンアップ時間の遅延：VMレプリケーションプロセス中に、「未処理のレプリケーション ジョブの完了後に再試行してください (Please retry again after outstanding replication jobs are complete)」、または「DP ピアの解除に失敗しました：ピア レプリケーション CIP <IP アドレス> の接続キャッシュのクリーニングに失敗しました。レプリケーション ジョブ (#) は進行中です。未処理のレプリケーション ジョブの完了後に再試行してください (DP Peer forget failed: Failed to clean connection cache for peer replication CIP <IP address>. Replication jobs (#) in progress. Please retry again after outstanding replication jobs are complete.)」というメッセージが表示されることがあります。これらは、ポリシーのデタッチが失敗したことを示しています。これらのメッセージが表示された場合は、NR/NFSのクリーンアップに遅延が発生しています。数分後に再試行してください。

stcli dp schedule コマンド

データ保護スケジュール操作。

stcli dp schedule [-h] {pause | resume | status}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	pause	いずれか1つが必須。	レプリケーションを一時停止します。リモートクラスタへのレプリケーションスナップショットビットの送信を停止します。
	resume	セットのいずれかが必要。	レプリケーションを再開します。リモートクラスタへのレプリケーションスナップショットビットの送信を再開します。
	status	セットのいずれかが必要。	スケジューラの状態のクエリを実行します。これはデータベースの状態であり、スケジュールされたイベントの状態ではありません。スケジューラがフルであることを意味するものではありません。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli dp schedule コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp schedule pause コマンド

レプリケーションを一時停止します。既存のジョブの監視を停止し、リモートクラスタにレプリケーションスナップショットビットを送信する新しいジョブの作成を停止します。

stcli dp schedule pause [-h]

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp schedule pause コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp schedule resume

レプリケーションを再開します。既存のジョブの監視を再開し、リモートクラスタにデータレプリケーションビットを送信する新しいジョブの作成を再開します。

stcli dp schedule resume [-h]

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp schedule resume コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli dp schedule status

スケジューラの状態のクエリを実行します。これはデータベースの状態であり、スケジュールされたイベントの状態ではありません。スケジューラがフルであることを意味するものではありません。

stcli dp schedule status [-h]

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp schedule status` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli drnetwork cleanup コマンド

DR ネットワークを削除します。

stcli drnetwork cleanup [-h]

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン DR ネットワークのクリーンアップ操作の一部として、`stcli drnetwork cleanup` コマンドを使用します。

stcli license コマンド**stcli license コマンド**

スマート ライセンス操作。

stcli license [-h] {register | deregister | show | renew}

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
register	いずれか1つが必須。	ID トークンにスマート ライセンスを登録します。
deregister	セットのいずれかが必要。	スマート ライセンスを登録解除します。
show	セットのいずれかが必要。	スマート ライセンス オプションを表示します。概要、固有デバイス識別子 (UDI) 、使用回数、技術サポートの詳細、登録と承認ステータス、およびインスタンス名が含まれます。
renew	セットのいずれかが必要。	スマート ライセンス操作を更新します。

コマンドデフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli license コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli license register コマンド

ID トークンにスマート ライセンスを登録します。

stcli license register [-h] --idtoken IDTOKEN [--force]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--idtoken IDTOKEN	必須。	登録 ID トークン。
	--force	オプション。	クラスタがすでに登録されていても強制的に登録します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli license register コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

```
# stcli license register--idtoken
ZmM2YTUhZjMtZTQxNi00...1LTE0ODg0NzkppYmF...A3OD0%3D%0...8caERE
```

stcli license deregister コマンド

スマート ライセンスを登録解除します。

stcli license deregister [-h]

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli license deregister コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli license reservation install コマンド

ファイルパスを使用してスマートライセンスを予約します。

stcli license reservation install [-h]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--file FILE_PATH	オプション。	認証コード ファイルのパス。

コマンドデフォルト なし

使用上のガイドライン stcli license reservtion install コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

```
# stcli license reservation install -h --file FILE_PATH
```

stcli license show コマンド

選択したオプションに基づいてスマート ライセンス情報を表示します。

stcli license show

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
all	オプション。	すべてのライセンス情報を表示します。
auth-status	オプション。	スマート ライセンス認証のステータスを表示します。
inst-name	オプション。	クラスタ インスタンス名を表示します。
reg-status	オプション。	スマート ライセンス登録のステータスを表示します。
status	オプション。	スマート ライセンスの登録、承認、およびライセンスのステータスを表示します。
summary	オプション。	スマート ライセンスの概要を表示します。
tech-support	オプション。	スマート ライセンスのテクニカル サポートの詳細を表示します。
udi	オプション。	スマート ライセンスの固有デバイス識別子 (UDI) を表示します。
usage	オプション。	スマート ライセンスの使用数を表示します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli license show コマンドでは、必須のオプションを指定し、先頭にダッシュ (--) は必要ありません。必要に応じて、[] で囲まれた引数を指定します。

ライセンスが登録されていない場合の例

```
# stcli license show status
```

```
Smart Licensing is ENABLED
Registration: Status: UNREGISTERED
Export-Controlled Functionality: Not Allowed
License Authorization: Status: EVAL MODE
Evaluation Period Remaining: 89 days, 23 hr, 57 min, 3 sec
Last Communication Attempt: NONE
```

ライセンスが登録されている場合の例

```
# stcli license show summary
```

```
Smart Licensing is ENABLED
Registration:
  Status: REGISTERED
  Smart Account: HyperFlex License Test
  Virtual Account: derek
  Last Renewal Attempt: None
  Next Renewal Attempt: Aug 1 17:47:06 2017 PDT
License Authorization:
  Status: AUTHORIZED
  Last Communication Attempt: SUCCEEDED
  Next Communication Attempt: Mar 4 16:47:11 2017 PST
License Usage:
  License                Entitlement Tag
                        Count          Status
```

```
Cisco Vendor String XYZ  regid.2016-11.com.cisco.HX-SP-DP-S001,1.0_1c06...d45203
InCompliance
```

stcli license renew コマンド

スマート ライセンス操作を更新します。

```
stcli license renew [-h] {id | auth}
```

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
auth	いずれか1つが必須。	スマート ライセンス承認を更新します。
id	セットのいずれかが必要。	登録および登録 ID 証明書情報を更新します。

コマンド デフォルト

なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン

stcli license review コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli node コマンド

stcli node コマンド

ストレージクラスタ ノードで実行される操作。



- (注) 互いに競合する操作を同時に実行しないでください。たとえば、ノードの追加とノードの削除を次のように同時に実行しないでください。stcli node add --node-ips NODEIPS remove --id-1 ID1

stcli nodes [-h] {discover | list | info | identify | disks | disk | add | remove | maintenanceMode}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	add	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタにノードのセットを追加します。
	discover	セットのいずれかが必要。	このノードと同じサブネットで検出可能なストレージクラスタ ノードをリストします。
	disk	セットのいずれかが必要。	ノード内の物理ディスクを検索します。
	disks	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ ノードの物理ディスクに関する情報を提供します。
	identify	セットのいずれかが必要。	ノードを識別するノード ビーコンをオン/オフにします。
	info	セットのいずれかが必要。	指定されたストレージクラスタ ノードに関する情報を提供します。
	list	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ内のストレージクラスタ ノードをリストします。
	maintenanceMode	セットのいずれかが必要。	メンテナンス モードを開始または終了します。
	remove	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタからノードを削除します。

コマンドデフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli node コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli node discover コマンド

このノードと同じサブネットで検出可能なストレージクラスタ ノードをリストします。

stcli node discover [-h]

コマンド デフォルト なし。他にパラメータはありません。

使用上のガイドライン ストレージクラスタに対して stcli node discover コマンドを実行します。

```
# stcli node discover

state:
storfsIp:
  addr:
  stService:
  gateway:
  subnetMask:
  method:

host:
  state:
  about:
    serviceType:
    instanceUuid:
    name:
    locale:
    serialNumber:
    apiVersion:
    modelNumber:
    build:
    fullName:
    productVersion:

  stctlvm:
    name:
    ip:
    guestHostname:
    storageNetworkIp:
    moId:
    role:
    entityRef:
      type:
      id: v
      name:
    version:
    passthrough:
    guestState:
    mgmtNetworkIp:

  name:
  ip:
    addr:
    stService:
    vlanId:
    gateway:
```



```

        subnetMask:
        method:

moid:
ipmiSettings:
  addr:
  stService:
  gateway:
  subnetMask:
  method:

ioVisor:
  about:
    serviceType:
    instanceUuid:
    name:
    locale:
    serialNumber:
    apiVersion:
    modelNumber:
    build:
    fullName:
    productVersion:
  state:

bootTime:
entityRef:
  type:
  id:
  name:
vMotionIp:
  addr:
  vlanId:
  gateway:
  subnetMask:
  method:
enclosureSerialNumber:

entityRef:
  type:
  id:
  name:
progress:

```

stcli node list コマンド

ストレージクラスタ内のノードをリストします。

stcli node list [-h] --summary

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--summary	オプション。	概要のみを表示します。
コマンドデフォルト			なし。

使用上のガイドライン stcli node list コマンドを実行し、[] で囲まれた引数を任意に含めることもできます。

```
# stcli node list
-----
upgradeState:
state:
storfsIp:
  addr:
  stService:
  vlanId:
  gateway:
  subnetMask:
  method:
pNode:
  about:
    serviceType:
    instanceUuid:
    name:
    locale:
    serialNumber:
    apiVersion:
    modelNumber:
    build:
    displayVersion:
    fullName:
    productVersion:
  retired:
  compression:
  ip:
  dedup:
  nsPrimary:
  dataWriteThruEnabled:
  state:
  bootTime:
  master:
  entityRef:
    type:
    id:
    name:
  version:
  lastModifiedTime:
  name:
host:
  state:
  about:
    serviceType:
    instanceUuid:
    name:
    locale:
    serialNumber:
    apiVersion:
    modelNumber:
    build:
    fullName:
    productVersion:
stctlvm:
  name:
  storageClusterIp:
  ip:
```

```
    guestHostname:
    mgmtClusterIp:
    storageNetworkIp:
    moid:
    role:
    entityRef:
      type:
      id:
      name:
    version:
    passthrough:
    guestState:
    mgmtNetworkIp:

  name:
  ip:
    addr:
    stService:
    vlanId:
    gateway:
    subnetMask:
    method:

  moid:
  ipmiSettings:
    addr:
    stService:
    gateway:
    subnetMask:
    method:

  ioVisor:
    about:
      serviceType:
      instanceUuid:
      name:
      locale:
      serialNumber:
      apiVersion:
      modelNumber:
      build:
      fullName:
      productVersion:
    state:

  bootTime:
  entityRef:
    type:
    id:
    name:
  vMotionIp:
    addr:
    vlanId:
    gateway:
    subnetMask:
    method:
  enclosureSerialNumber:

  entityRef:
    type:
    id:
    name:
  upgradeVersion:
  -----
```

stcli node info コマンド

指定されたストレージクラスタ ノードに関する情報を提供します。

stcli node info [-h] [--id ID | --ip NAME] [--summary]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--id ID	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタノードの固有ID番号。IDは、stcli cluster info コマンドを実行すると、stNode フィールドの id に表示されます。
	--ip NAME	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPは、stcli cluster info コマンドを実行すると、stNode フィールドの name に表示されます。 --ip オプションは現在サポートされていません。
	--summary	オプション。	概要のみを表示します。

コマンドデフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli node info コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli node identify コマンド

ノードを識別するノード ビーコンをオン/オフにします。



重要 プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

stcli node identify [-h] --ipmiIp IPMIIP [--interval INTERVAL] [--user USER]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--ipmiIp IPMIIP	必須	Ipmi IP アドレス。
	--interval INTERVAL	任意	ビーコンをオンにするまでの秒数。指定しない場合、ビーコンはオフになります。

Option	必須またはオプション	説明
---user USER	任意	IPMI 管理ユーザー名 プロンプトが表示されたら、IPMI 管理パスワードを入力します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli node identify コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定し、オプションで1個以上の {} で囲まれた位置指定引数を指定します。

stcli node disks コマンド

ストレージクラスタノードの物理ディスクに関する情報を提供します。

stcli node disks [-h] [--id ID | --ip NAME]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--id ID	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタノードの固有ID番号。IDは、stcli cluster info コマンドを実行すると、stNode フィールドの id に表示されます。
	--ip NAME	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPは、stcli cluster info コマンドを実行すると、stNode フィールドの name に表示されます。

コマンドデフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli node disks コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定します。

stcli node disk コマンド

ノード内の物理ディスクを検索します。

stcli node disk [-h] [--id ID | --ip NAME] [--lighton | lightoff]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--id ID	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタノードの固有ID番号。IDは、 <code>stcli cluster info</code> コマンドを実行すると、 <code>stNode</code> フィールドの <code>id</code> に表示されます。
	--ip NAME	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPは、 <code>stcli cluster info</code> コマンドを実行すると、 <code>stNode</code> フィールドの <code>name</code> に表示されます。
	--lighton	オプション。	ディスク上のIDライトをオンにします。
	--lightoff	オプション。	ディスク上のIDライトをオフにします。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン `stcli node disk` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli node add コマンド

指定されたノードをストレージクラスタに追加します。



- (注)
- プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
 - `stcli node add` コマンドは、ストレージクラスタがオンラインで正常な状態であるときのみ使用してください。
 - 互いに競合する操作を同時に実行しないでください。たとえば、ノードの追加とノードの削除を次のように同時に実行しないでください。`stcli node add --node-ips NODEIPS remove --id-1 ID1`

標準クラスタまたは edge クラスタ:

```
stcli node add [-h] --node-ips NODEIPS [NODEIPS...] [--esx-username ESXUSERNAME] [--dryrun]
ストレッチ クラスタ:
```

```
stcli node add [-h] --node-ips NODEIPS [NODEIPS...]:<Site Name> [--esx-username
ESXUSERNAME] [--dryrun]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--node-ips NODEIPS [NODEIPS ...]	必須	ストレージクラスタに追加されるノードの ESXi 管理/vmk0 IP アドレス。
	--dryrun	任意	入力パラメータを検証するだけです。
	Site Name	ストレージクラスタに必須	ノードのサイト名。
	--esx-username ESCUSERNAME	任意	ESX 管理者のユーザ名。 プロンプトが表示されたら ESX 管理者パスワードを入力します。
	コントローラ VM ルートユーザ パスワード	任意	すべてのノードが同じパスワードである必要があります。 プロンプトが表示されたらコントローラ VM パスワードを入力します。

コマンドデフォルト なし。ノードの識別子は必須です。

使用上のガイドライン stcli node add コマンドでは、--node-ips を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



- (注) ストレージクラスタに新しいノードを追加する場合に、ストレージクラスタが領域不足の状態であると、ストレージクラスタが自動的に再調整されます。そうでない場合、再調整が毎晩スケジュールされます。

stcli node remove コマンド

重要: クラスタからノードを完全に削除するには、stcli node remove コマンドを使用します。後で同じノードを同じクラスタに再度追加する場合は、stcli node remove コマンドを実行しないでください。すでに属していたクラスタへのノードの追加はサポートされていません。



- (注) HX 4.5(1a) 以降では、1 つのコンバージド ノードのみを削除できます。



- (注) 互いに競合する操作を同時に実行しないでください。たとえば、ノードの追加とノードの削除を次のように同時に実行しないでください。stcli node add --node-ips NODEIPS remove --id-ID1



警告 論理アベイラビリティゾーン (LAZ) が設定された HyperFlex クラスタのノードを削除する前に、LAZ を無効にする必要があります。

LAZ を HyperFlex クラスタで使用する場合、LAZ を再有効化する前に、残りのノードの数を、[LAZ のガイドライン](#)と[考慮事項](#)に従って LAZ をサポートするバランスの取れた構成にする必要があります。

stcli node remove [-h] [--id-1 ID1 | --ip-1 NAME1] [-f]

表 3: 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--id-1 ID1	いずれか 1 つが必須。	ストレージクラスタノードの固有 ID 番号。ID は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドを実行すると、 <code>stNode</code> フィールドの <code>id</code> に表示されます。
--ip-1 NAME1	いずれか 1 つが必須。	ストレージクラスタノードの IP アドレス。IP は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドを実行すると、 <code>stNode</code> フィールドの <code>name</code> に表示されます。
-f, --force	オプション。	ストレージクラスタノードを強制的に削除します。

コマンドデフォルト なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン `stcli node remove` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

- ストレージクラスタからノードを削除する前に、DRS が有効になっていることを確認してください。DRS は、電源がオンの VM だけを移行します。
- ESXi ノードでは、ノードの削除を実行する前に、まずノードをメンテナンスモードにする必要があります。
- 5以下のクラスタサイズについては、メンテナンスウィンドウをスケジュールし、ノードの削除を実行する前にシャットダウンしてください。
- ネットワークに電源オフの VM がある場合には、それを手動でストレージクラスタに移行する必要があります。そうしないと、ノードを削除した後で、その VM にアクセスできなくなります。
- DRS が有効でない場合は、手動で VM を移行してください。

- ノードを削除するには、ストレージクラスタが正常である必要があります。また、ノードを削除しても使用可能なノード数が最小限の3つ未満にならないことが必要です（3ノード未満になるとストレージクラスタが正常でなくなります）。

stcli node maintenanceMode コマンド

ストレージクラスタ内の ESX サーバを HX メンテナンス モードにします。

```
stcli node maintenanceMode [-h] [--id ID | ip NAME] --mode MODE {enter | exit} [--timeout TIMEOUT]
```

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--id ID	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタノードの固有ID番号。IDは、 <code>stcli cluster info</code> コマンドを実行すると、 <code>stNode</code> フィールドの <code>id</code> に表示されます。
--ip NAME	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPは、 <code>stcli cluster info</code> コマンドを実行すると、 <code>stNode</code> フィールドの <code>name</code> に表示されます。
--mode MODE	必須	<code>enter</code> に設定すると HX メンテナンス モードを開始し、 <code>exit</code> に設定すると終了します。
--timeout TIMEOUT	オプション。	HX メンテナンスモードのタイムアウトを秒単位で設定します。

コマンドデフォルト

なし。いずれか1つのオプションが必須で、`--mode` タイプも必須です

使用上のガイドライン

`stcli node maintenanceMode` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかと `--mode` タイプを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli security コマンド

stcli security コマンド

セキュリティ関連の操作。

```
stcli security [-h] {password | whitelist | ssh | encryption}
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	password	いずれか1つが必須。	ストレージセキュリティパスワード操作名前空間でサポートされているコマンド。
	ssh	セットのいずれかが必要。	ストレージセキュリティ ssh 名前空間でサポートされているコマンド。
	whitelist	セットのいずれかが必要。	ストレージセキュリティ ip ホワイトリスト名前空間でサポートされているコマンド。
	encryption	セットのいずれかが必要。	ストレージセキュリティ暗号化名前空間でサポートされているコマンド。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli security コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli security encryption コマンド

暗号化管理操作。

stcli security encryption [-h] {ucsm-ro-user}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	ucsm-ro-user	必須です。	セキュリティ暗号化UCSMROユーザ名前空間でサポートされているコマンド。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli security encryption コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli security encryption ucsm-ro-user コマンド

暗号化 UCSM 読み取り専用 (RO) ユーザ操作。

stcli security encryption ucsm-ro-user [-h] {show | create | delete}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	create	いずれか1つが必須。	UCSM RO ユーザを作成します。
	delete	いずれか1つが必須。	UCSM RO ユーザを削除します。
	show	いずれか1つが必須。	UCSMRO ユーザクレデンシャルを表示します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli security encryption ucsm-ro-user コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli security encryption ucsm-ro-user create コマンド

暗号化 UCSM 読み取り専用 (RO) ユーザ作成操作。



重要 プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

stcli security encryption ucsm-ro-user create [-h] --hostname HOSTNAME [--username USERNAME]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--hostname HOSTNAME	必須です。	UCSM ホスト名。
	--username USERNAME	オプション。	UCSM ユーザ名。 (注) ROユーザーの作成に使用するUCSMユーザーは、LDAP または AD ユーザーではなく、ローカルUCSMユーザーである必要があります。 プロンプトが表示されたら、UCSM 管理レベルパスワードを入力します。

コマンド デフォルト ユーザ名のデフォルトは admin です。

使用上のガイドライン stcli security encryption ucsm-ro-user create コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli security encryption ucsm-ro-user delete コマンド

暗号化 UCSM 読み取り専用 (RO) ユーザ削除操作。



重要 プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

stcli security encryption ucsm-ro-user delete [-h] --hostname HOSTNAME [--username USERNAME]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--hostname HOSTNAME	必須です。	UCSM ホスト名。
	--username USERNAME	オプション。	UCSM ユーザ名。UCSM 管理者レベルのユーザである必要があります。 プロンプトが表示されたら、UCSM 管理レベルパスワードを入力します。

コマンド デフォルト ユーザ名のデフォルトは admin です。

使用上のガイドライン stcli security encryption ucsm-ro-user delete コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli security encryption ucsm-ro-user show コマンド

暗号化 UCSM 読み取り専用 (RO) ユーザ表示。

stcli security encryption ucsm-ro-user show [-h]

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli security encryption ucsm-ro-user show コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli security password コマンド

SSH キー管理操作。ストレージ クラスタ内のすべてのコントローラ VM 用のユーザパスワードを設定します。



重要 プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

stcli security password set [-h] [--user USER]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	set	必須。	ストレージクラスタ内のすべてのコントローラ VM 用のユーザパスワードを設定します。
	--user USER	オプション。	ユーザは、 admin または root である必要があります。指定しない場合、 root ユーザであると想定されます。

コマンドデフォルト デフォルトのコントローラ VM ユーザ名は `root`、パスワードは `Cisco123` です。

使用上のガイドライン `stcli security password set` コマンドでは、[] で囲まれたオプション引数を 1 つ指定できます。

stcli security ssh コマンド

SSH キー管理操作。ストレージクラスタ内の SSH キーを再同期します。

stcli security ssh [-h] resync

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	resync	必須。	ストレージクラスタ内の SSH キーを再同期します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli security ssh` コマンドは、`resync` 位置指定引数を指定して実行し、その際に [] で囲まれた引数を任意に含めることもできます。

stcli security whitelist コマンド

IP テーブル ホワイトリストの操作。

stcli security whitelist [-h] [list | add | remove | clear]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	add	いずれか 1 つが必須。	IP テーブル ホワイトリストに IP アドレスを追加します。
	clear	セットのいずれかが必要。	IP テーブル ホワイトリストから IP アドレスをクリアします。
	list	セットのいずれかが必要。	IP テーブル ホワイトリストのエントリをリストします。

Option	必須またはオプション	説明
remove	セットのいずれかが必要。	IP テーブル ホワイト リストから IP アドレスを削除します。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli security whitelist コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli security whitelist list コマンド

IP テーブル内のホワイト リスト エントリのリストを表示します。

stcli security whitelist list [-h]

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli security whitelist list コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

```
# stcli security whitelist list
10.1.1.2
10.1.2.3
```

stcli security whitelist add コマンド

IP テーブル ホワイト リストに IP アドレスを追加します。

stcli security whitelist add [-h] --ips IP [IP ...]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--ips IP [IP ...]	必須。	ホワイト リストに追加する IP アドレス。

コマンド デフォルト なし。IP アドレスは必須です。

使用上のガイドライン stcli security whitelist add コマンドでは、追加するサーバの IP アドレスを指定します。

```
# stcli security whitelist add --ips 10.1.2.3 10.3.4.5
```

stcli security whitelist remove コマンド

IP テーブル ホワイト リストから指定された IP アドレスを削除します。

stcli security whitelist remove [-h] --ips IP [IP ...]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<code>--ips IP [IP...]</code>	必須。	ホワイトリストから削除する IP アドレス。
コマンド デフォルト	なし。		
使用上のガイドライン	stcli security whitelist remove コマンドでは、ホワイトリストから削除する IP アドレスを指定します。		
	<pre># stcli security whitelist remove --ips 10.1.2.3</pre>		

stcli security whitelist clear コマンド

IP テーブル ホワイトリストで IP アドレスのリスト全体を削除します。

stcli security whitelist clear [-h]

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli security whitelist clear コマンドは、ホワイトリストから IP アドレスを削除するために実行します。

stcli services コマンド

stcli services コマンド

システム サービス関連の操作。

stcli services [-h] [smtp | dns | ntp | asup | sch | remotesupport | timezone]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<code>asup</code>	いずれか 1 つが必須。	自動サポート (ASUP) 設定名前空間でサポートされているコマンド。
	<code>dns</code>	セットのいずれかが必要。	ストレージ DNS 設定名前空間でサポートされているコマンド。
	<code>ntp</code>	セットのいずれかが必要。	ストレージ NTP 設定名前空間でサポートされているコマンド。
	<code>remotesupport</code>	セットのいずれかが必要。	サポート リモート アクセス用にサポートされているコマンド。

Option	必須またはオプション	説明
sch	セットのいずれかが必要。	Smart Call Home 設定名前空間でサポートされているコマンド。
smtp	セットのいずれかが必要。	自動サポート設定名前空間用のストレージ SMTP でサポートされているコマンド。
timezone	セットのいずれかが必要。	タイムゾーン設定名前空間でサポートされているコマンド。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン `stcli services` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数を少なくとも1つ指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli services smtp コマンド

HX Data Platform の Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) 設定オプション。SMTP は、電子メール送信のインターネット標準です。SMTP サーバは、HX ASUP 機能とともに使用されます。

stcli services smtp [-h] {show | set | clear}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	clear	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタ設定からすべての SMTP サーバを削除します。
	set	セットのいずれかが必要。	すべての SMTP サーバをストレージクラスタ設定に追加します。
	show	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ用に設定されたすべての SMTP サーバをリストします。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン `stcli services smtp` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli services smtp show コマンド

ストレージクラスタが設定されている SMTP サーバを表示します。

stcli services smtp show [-h]

コマンド デフォルト 他にオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services smtp show コマンドは、ストレージクラスタ設定のすべての SMTP サーバを表示するために実行します。

```
# stcli services smtp show

smtpServer: mailhost.eng.mycompany.com
fromAddress: admin@mycompany.com
```

stcli services smtp set コマンド

SMTP サーバをストレージクラスタ設定に追加します。

stcli services smtp set [-h] --smtp SMTPSERVER --fromaddress FROMADDRESS

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--smtp SMTPSERVER	必須。	SMTP サーバのホスティング アドレス。
	--fromaddress FROMADDRESS	必須です。	自動サポート電子メールの送信元となる電子メール アドレス。SMTP サーバが受信者にメール通知を送信するために使用するアドレス。

コマンド デフォルト なし。サーバ情報は必須です。

使用上のガイドライン stcli services smtp set コマンドでは、必須パラメータを指定します。SMTP サーバが設定されていることを確認するには、/etc/msmtprc ファイルを確認します。

```
# stcli services smtp set --smtp mailhost.eng.mycompany.com --fromAddress
smtpnotice@mycompany.com
```

stcli services smtp clear コマンド

ストレージクラスタ設定からすべての SMTP サーバを削除します。

stcli services smtp clear [-h]

コマンド デフォルト 他にオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services smtp clear コマンドは、ストレージクラスタ設定からすべての SMTP サーバを削除するために実行します。

SMTP サーバが削除されたことを確認するには、/etc/msmtprc ファイルが存在しないことを確認します。

```
# stcli services smtp clear
```

stcli services dns コマンド

ドメイン ネーム サーバ (DNS) サーバ設定操作。DNS は、インターネットまたはプライベートネットワークに接続されたコンピュータ、サービス、およびリソース向けの階層的な分散型ネーミング システムです。

stcli services dns [-h] {show | set | add | remove}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	add	いずれか 1 つが必須。	DNS サーバ リストにサーバを追加します。
	set	セットのいずれかが必要。	DNS サーバ リストをこの新しいリストに置き換えます。
	show	セットのいずれかが必要。	DNS サーバ リストを表示します。
	remove	セットのいずれかが必要。	DNS サーバ リストからサーバを削除します。

コマンド デフォルト なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン `stcli services dns` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli services dns show コマンド

DNS サーバ リストを表示します。

stcli services dns show [-h]

コマンド デフォルト 他にオプションはありません。

使用上のガイドライン `stcli services dns show` コマンドを実行します。

```
# stcli services dns show
10.64.1.8
10.64.1.9
```

stcli services dns set コマンド

DNS サーバ リストの既存のサーバ リストを置き換えます。現在のリストを削除して既存のリストにサーバを追加するには、`dns add` を使用します。

stcli services dns set [-h] --dns DNSSERVER [DNSSERVER...]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--dns DNSSERVER [DNSSERVER...]	必須。	現在の DNS サーバリストを置き換える少なくとも 1 つのサーバをリストします。
コマンドデフォルト	なし。サービス ID は少なくとも 1 つ必要です。		
使用上のガイドライン	stcli services dns set コマンドでは、少なくとも 1 つの DNS サーバ ID を指定します。サーバが複数ある場合はスペースで区切ります。		
	<pre># stcli services dns set --dns 10.60.1.1</pre>		

stcli services dns add コマンド

DNS サーバリストにサーバを追加します。

stcli services dns add [-h] --dns DNSSERVER [DNSSERVER...]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--dns DNSSERVER [DNSSERVER...]	必須。	DNS サーバリストに追加する 1 つ以上のサーバをリストします。
コマンドデフォルト	なし。サービス ID は少なくとも 1 つ必要です。		
使用上のガイドライン	stcli services dns add コマンドでは、少なくとも 1 つの DNS サーバ ID を指定します。サーバが複数ある場合はスペースで区切ります。		
	<pre># stcli services dns add --dns 10.60.8.9</pre>		

stcli services dns remove コマンド

DNS サーバリスト内の既存のサーバリストから 1 つ以上またはすべてのサーバを削除します。

stcli services dns remove [-h] --dns DNSSERVER [DNSSERVER...]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--dns DNSSERVER [DNSSERVER...]	オプション。	現在の DNS サーバリストから削除する少なくとも 1 つのサーバをリストします。
コマンドデフォルト	デフォルトでは、リストからすべての DNS サーバを削除します。		

使用上のガイドライン stcli services dns remove コマンドでは、DNS サーバ ID をまったく指定しないか、1 つまたは複数指定します。サーバが複数ある場合はスペースで区切ります。

```
# stcli services dns remove --dns 10.60.6.7
```

stcli services ntp コマンド

HX Data Platform ネットワーク タイム プロトコル (NTP) 設定操作。

NTP はコンピュータ ネットワークでコンピュータの時刻を同期するために使用するプロトコルで、これを使用すると、複数のネットワーク デバイスからシステム ログやその他の時間固有のイベントを受信したときに、イベントを相互に関連付けることができようになります。NTP ではトランスポートプロトコルとして、ユーザデータグラムプロトコル (UDP) を使用します。すべての NTP 通信は UTC を使用します。

stcli services ntp [-h] {add | set | show | remove}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	add	いずれか 1 つが必須。	1 つ以上のサーバをストレージ NTP サーバリストに追加します。
	set	セットのいずれかが必要。	既存の NTP サーバリストを指定された DNS サーバリストに置き換えます。
	show	セットのいずれかが必要。	ストレージ NTP サーバリストを表示します。
	remove	セットのいずれかが必要。	ストレージ NTP サーバリストから 1 つ以上のサーバを削除します。

コマンド デフォルト なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli services ntp コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli services ntp add コマンド

1 つ以上のサーバをストレージ DNS サーバリストに追加します。

stcli services ntp add [-h] --ntp NTPSERVER [NTPSERVER ...]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--ntp NTPSERVER [NTPSERVER ...]	必須。	1 つ以上のサーバをストレージ NTP サーバリストに追加します。

コマンドデフォルト なし。サービス ID は少なくとも 1 つ必要です。

使用上のガイドライン stcli services ntp add コマンドでは、少なくとも 1 つのサーバ ID を指定します。

```
# stcli services ntp add --ntp 136.158.1.0
```

stcli services ntp set コマンド

既存の NTP サーバリストを新しいリストに置き換えます。既存のリストにサーバを追加するには、ntp add を使用します。

```
stcli services ntp set [-h] --ntp NTPSERVER [NTPSERVER...]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--ntp NTPSERVER [NTPSERVER...]	必須。	1 つ以上のサーバを指定して、現在のストレージ NTP サーバリストを置き換えます。

コマンドデフォルト なし。サービス ID は少なくとも 1 つ必要です。

使用上のガイドライン stcli services ntp set コマンドでは、少なくとも 1 つのサーバ ID を指定します。

```
# stcli services ntp set --ntp 10.12.1.1
```

stcli services ntp show コマンド

ストレージ DNS サーバリストを表示します。

```
stcli services ntp show [-h]
```

コマンドデフォルト 指定できるオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services ntp show コマンドを実行します。

```
# stcli services ntp show
0.company.pool.ntp.org
ntp.ubuntu.com
```

stcli services ntp remove コマンド

ストレージ DNS サーバリストから 1 つ以上のサーバを削除します。

```
stcli services ntp remove [-h] --ntp NTPSERVER [NTPSERVER...]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--ntp NTPSERVER [NTPSERVER...]	オプション。	ストレージ DNS サーバリストから 1 つ以上のサーバを削除します。
コマンド デフォルト	デフォルトでは、ストレージ NTP サーバリストからすべての NTP サーバを削除します。		
使用上のガイドライン	stcli services ntp remove コマンドでは、少なくとも 1 つのサーバ ID を指定します。		

```
# stcli services ntp remove --ntp 136.158.1.0
```

stcli services asup コマンド

このセクションでは、Cisco 自動サポート (ASUP) コマンドをリストし、説明します。ASUP は、障害に関する情報をプロアクティブに取得し、即時に対応できるようにします。ASUP はシステム パフォーマンスおよびキャパシティを計画する際にも役立ちます。



(注) ASUP は、SMTP に依存しています。ASUP を有効にする前に、ネットワークに SMTP を設定していることを確認してください。

```
stcli services asup [-h] {enable | disable | show | recipients}
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	disable	いずれか 1 つが必須。	ASUP を無効にします。
	enable	セットのいずれかが必要。	ASUP を有効にします。
	recipients	セットのいずれかが必要。	ASUP 受信者リスト設定をサポートするためのコマンド。
	show	セットのいずれかが必要。	ASUP 設定を表示します。

コマンド デフォルト なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli services asup コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli services asup enable コマンド

HX 自動サポート (ASUP) のサポートを有効にします。

stcli services asup enable [-h]

コマンドデフォルト 他にオプションはありません。

使用上のガイドライン

1. SMTP が設定されていることを確認します。stcli services asup smtp コマンドを参照してください。
2. stcli services asup enable コマンドを実行します。

```
# stcli services asup enable
```

stcli services asup disable コマンド

HX 自動サポート (ASUP) のサポートを無効にします。

stcli services asup disable [-h]

コマンドデフォルト 他にオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services asup disable コマンドを実行します。

```
# stcli services asup disable
```

stcli services asup show コマンド

ASUP 設定を表示します。これには ASUP 受信者リストが含まれ、さらに ASUP が有効か無効かも示されます。

stcli services asup show [-h]

コマンドデフォルト 他に指定できるオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services asup show コマンドは、適用されている ASUP 設定をリストするために実行します。

この応答例では、ASUP が有効でなく、受信者リストに電子メール アドレスがないことを示しています。

```
# stcli services asup show
```

```
recipientList:  
enabled: False
```

stcli services asup recipients コマンド

HX 自動サポート (ASUP) 受信者設定操作。

stcli services asup recipients [-h] {set | clear | add | remove}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	add	いずれか1つが必須。	ASUP 受信者の既存のリストに ASUP 電子メール受信者を追加します。
	clear	セットのいずれかが必要。	ASUP 受信者リスト全体を削除します。個々の受信者を削除するには、 <code>asup recipients remove</code> を使用します。
	remove	セットのいずれかが必要。	既存のリストから指定された ASUP 電子メール受信者を削除します。
	set	セットのいずれかが必要。	ASUP 受信者リストを設定します。以前に設定した受信者リストを置き換えます。既存のリストに受信者を追加するには、 <code>asup recipients add</code> を使用します。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン `stcli services asup recipients` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

- 既存の受信者リストからすべての受信者を削除するには、`clear` オプションを使用します。
- 受信者リストから特定の電子メールアドレスを削除するには、`remove` オプションを使用します。
- 受信者リストに新しい電子メールアドレスを追加するには、`add` オプションを使用します。
- 以前の受信者リストを新しい受信者リストに置き換えるには、`set` オプションを使用します。

stcli services asup recipients set コマンド

ASUP 電子メール受信者の既存のリストを指定された電子メールアドレスのリストに置き換えます。これは、既存のリストのすべての受信者を削除します。既存の受信者を削除するのではなく、既存のリストに受信者を追加するには、`asup recipients add` を使用します。

stcli services asup recipients set [-h] --recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]	必須。	1つ以上の電子メールアドレスを追加して、ASUP 通知を受け取る受信者の既存のリストを置き換えます。電子メール受信者が複数存在する場合はスペースで区切ります。

コマンドデフォルト なし。少なくとも 1 人の受信者を入力してください。

使用上のガイドライン stcli services asup recipients set コマンドでは、少なくとも 1 人の受信者を指定します。複数の受信者を指定する場合は、各電子メールアドレスをスペースで区切ります。

```
# stcli services asup recipients set --recipients user1@mycompany.com user2@mycompany.com
```

stcli services asup recipients clear コマンド

ASUP 受信者リスト全体を削除します。個々の受信者を削除するには、asup recipients remove を使用します。

stcli services asup recipients clear [-h]

コマンドデフォルト 他にオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services asup recipients clear コマンドは、受信者リストからすべての電子メールアドレスを削除するために実行します。

stcli services asup recipients add コマンド

ASUP 受信者の既存のリストに ASUP 電子メール受信者を追加します。既存のリストがこの時点で空である場合があります。このコマンドを使用すると、1人以上の受信者を追加できます。

stcli services asup recipients add [-h] --recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]	必須。	ASUP 通知を受け取る受信者の現在のリストに 1 つ以上の電子メールアドレスを追加します。

コマンドデフォルト なし。少なくとも 1 人の受信者を入力してください。

使用上のガイドライン stcli services asup recipients add コマンドでは、少なくとも 1 人の受信者を指定します。複数の受信者を指定する場合は、各電子メールアドレスをスペースで区切ります。

```
# stcli services asup recipients add --recipients user1@mycompany.com user2@mycompany.com
```

stcli services asup recipient remove コマンド

ASUP 受信者の既存のリストから指定された個々の電子メール受信者を削除します。

stcli services asup recipients remove [-h] --recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]	必須。	ASUP通知を受け取る受信者の現在のリストから個々の電子メールアドレスを削除します。

コマンド デフォルト なし。少なくとも1人の受信者を入力してください。

使用上のガイドライン `stcli services asup recipients remove` コマンドでは、少なくとも1人の受信者を指定します。複数の受信者を指定する場合は、各電子メールアドレスをスペースで区切ります。

```
# stcli services asup recipients remove --recipients user1@mycompany.com
user2@mycompany.com
```

stcli services sch コマンド

このセクションでは、Cisco Smart Call Home (SCH) コマンドをリストし、説明します。Smart Call Home は、HX ストレージクラスタに関する継続的なモニタ、プロアクティブな診断、アラート、サービス チケット通知、および推奨する改善策を指定の ASUP カスタマー コンタクトに提供します。また、必要に応じて、HTTPS やプロキシサーバを介して情報を提供することもできます。



(注) HX ストレージクラスタがファイアウォールの背後にある場合、アクセスするにはプロキシサーバが必要です。

`stcli services` は、HTTPプロキシとHTTPSプロキシの両方をサポートします。

`stcli services sch [-h] {enable | disable | show | ping | clear | set}`

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	clear	いずれか1つが必須。	Smart Call Home 設定をクリアします。
	disable	いずれか1つが必須。	Smart Call Home を無効にします。
	enable	いずれか1つが必須。	Smart Call Home を有効にします。
	ping	いずれか1つが必須。	Smart Call Home エンドポイントに ping します。
	set	いずれか1つが必須。	HTTPS アクセス用のプロキシサーバを含め、Smart Call Home を登録するためのコマンド
	show	いずれか1つが必須。	Smart Call Home 設定を表示します。

コマンドデフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli services sch コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli services sch enable コマンド

HX Smart Call Home を有効にします。通知メールアドレスを設定するには、「stcli services sch set」を参照してください。

stcli services sch enable [-h]

コマンドデフォルト 他にオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services sch enable コマンドを実行します。

```
# stcli services sch enable
```

stcli services sch disable コマンド

HX Smart Call Home を無効にします。

stcli services sch disable [-h]

コマンドデフォルト 他にオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services sch disable コマンドを実行します。

```
# stcli services sch disable
```

stcli services sch show コマンド

Smart Call Home 設定を表示します。これには設定した通知メールとプロキシの設定が含まれ、さらに Smart Call Home は有効か無効かが示されます。

stcli services sch show [-h]

コマンドデフォルト 他に指定できるオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services sch show コマンドは、適用されている Smart Call Home 設定をリストするために実行します。

この応答例では、Smart Call Home は有効になっているものの、電子メールアドレスとプロキシ設定は設定されていないことを示しています。

```
# stcli services sch show
```

```

proxyPort: 0
proxyUser:
enabled: True
proxyPassword:
cloudEnvironment: production
proxyUrl:
emailAddress:
portalUrl:
cloudAsupEndpoint: https://diag-hyperflex.io/

```

stcli services sch ping コマンド

Smart Call Home エンドポイントに ping します。

stcli services sch ping [-h]

コマンド デフォルト オプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services sch ping コマンドを実行します。

次に例を示します。

```

# stcli services sch ping
ping to callhome endpoint was successful

```

stcli services sch clear コマンド

ストレージ クラスタ設定から Smart Call Home メールおよびプロキシ設定を削除します。

stcli services sch clear [-h]

コマンド デフォルト 他にオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services sch clear コマンドは、ストレージ クラスタ設定から Smart Call Home 通知メールおよびプロキシ設定を削除するために実行します。

```

# stcli services sch clear

```

stcli services sch set コマンド

Smart Call Home サービスに必要な連絡先とプロキシ サーバを設定します。



重要 入力を求められたら password を入力してください。

stcli services は、HTTPプロキシとHTTPSプロキシの両方をサポートします。

```
stcli services sch set [-h] --email EMAILADDRESS [--proxy-url PROXYURL] [--proxy-port PROXYPORT] [--proxy-user PROXYUSER] [--portal-url PORTALURL] [--enable-proxy ENABLEPROXY]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--email EMAILADDRESS	必須。	シスコ サポートから電子メールを受信するユーザのために、電子メールアドレスを追加します。配信リストまたはエイリアスを使用することをお勧めします。
	--enable-proxy ENABLEPROXY	オプション。	プロキシの使用を明示的に有効または無効にします。
	--portal-url PORTALURL	オプション。	代替の Smart Call Home ポータル URL を指定します (該当する場合)。
	--proxy-url PROXYURL	オプション。	HTTP または HTTPS プロキシの URL を指定します (該当する場合)。
	--proxy-port PROXYPORT	オプション。	HTTP または HTTPS プロキシのポートを指定します (該当する場合)。
	--proxy-user PROXYUSER	オプション。	HTTP または HTTPS プロキシの URL を指定します (該当する場合)。 HTTP または HTTPS プロキシのパスワードを指定します (メッセージが表示される場合)。

コマンドデフォルト なし。電子メールアドレスは必須です。デフォルトで、プロキシサーバは設定されません。

使用上のガイドライン stcli services sch set コマンドに電子メール受信者のアドレスを含めます。HX ストレージクラスタがファイアウォールの背後にある場合は、プロキシサーバを設定します。

Smart Call Home サービスを使用するには、このサービスが有効になっていることを確認します。stcli services sch show コマンドと stcli services sch enable コマンドを参照してください。

```
# stcli services sch set --email alias@mycompany.com
```

stcli services remotesupport コマンド

このセクションでは、リモートサポートコマンドをリストし、説明します。このコマンドにより、Cisco サポートはユーザの HX ストレージクラスタにアクセスして、設定されている通

知メールとプロキシの設定や、サポートによってトリガーされるサポートバンドルなど、クラスタ操作に関する情報を収集できます。

この設定はデフォルトでイネーブルになっています。

stcli services remotesupport [-h] {set | show}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	set	いずれか1つが必須。	リモートサポートを設定するコマンド。
	show	セットのいずれかが必要。	リモートサポート設定を表示します。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli services remotesupport コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli services remotesupport set コマンド

リモートサポートアクセスとアクションについて設定します。

stcli services remotesupport set [-h] --enable ENABLE_RS_VALUE [--enable-support-bundle-action ENABLE_RSB_VALUE]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--enable ENABLE_RS_VALUE	必須。	リモートサポートを有効または無効にします。true または false のいずれかの値を指定します。
	--enable-support-bundle-action ENABLE_RSB_VALUE	オプション。	サポートバンドルアクションを有効または無効にします。true または false のいずれかを指定します。 TAC がサポートバンドルの構築をリモートからトリガーできるようにします。

コマンド デフォルト リモートサポートは、デフォルトで有効になっています。

使用上のガイドライン stcli services remotesupport set コマンドでは、必須パラメータを指定します。

```
# stcli services remotesupport set --enable false
```

stcli services remotesupport show コマンド

リモートサポート設定を表示します。これには設定した通知メールとプロキシの設定が含まれ、さらにリモートサポートは有効か無効か、およびサポートによってトリガーされるサポートバンドルは有効か無効かが示されます。

stcli services remotesupport show [-h]

コマンド デフォルト 他に指定できるオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services remotesupport show コマンドは、適用されている設定をリストするために実行します。

この応答例では、サポートによるリモートアクセスおよびリモートからトリガーされるサポートバンドルが有効になっていることを示しています。

```
# stcli services remotesupport show
enableSupportBundleAction: True
enabled: True
```

stcli services timezone コマンド

HX Data Platform タイムゾーン設定操作。

stcli services timezone [-h] {show | set}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	set	いずれか1つが必須。	コントローラ VM のタイムゾーンを指定します。
	show	セットのいずれかが必要。	現在設定されているシステムタイムゾーンを表示します。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli services timezone コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli services timezone show コマンド

コントローラ VM に現在設定されているシステムタイムゾーンを表示します。

stcli services timezone show [-h]

コマンド デフォルト 他にオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services timezone show コマンドは、現在設定されているタイムゾーンを表示するために実行します。

```
# stcli services timezone show
America/New_York
```

stcli services timezone set コマンド

コントローラ VM のタイムゾーンを指定します。

stcli services timezone set [-h] --timezone TIMEZONE

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--timezone TIMEZONE	必須。	<p>タイムゾーンの値を指定します。</p> <p>有効なタイムゾーン値のリストについては、次にアクセスしてください。</p> <p>http://manpages.ubuntu.com/manpages/jaunty/ma%20n3/DateTime::TimeZone::Catalog.3pm.html</p> <ul style="list-style-type: none"> タイムゾーンの値は、このリストからのみ（大文字と小文字を区別して）指定するようにしてください。たとえば、Europe/Paris や America/Los_Angeles とします。 このリストにない値は無効です。 無効なタイムゾーンを指定すると、GMT に戻されます。

コマンドデフォルト なし。タイムゾーンは必須です。

使用上のガイドライン stcli services timezone set コマンドでは、有効なタイムゾーンを指定します。

```
# stcli services timezone set --timezone America/Los_Angeles
```


stcli vm clone および snapshot コマンド

stcli file clone コマンド

指定されたファイルの HX クローンを作成します。

```
stcli file clone [-h] --name NAME --clone CLONE [--parentname PARENTNAME] [--replfirst]
[--repl] [--readonly] [--thick]
```

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--clone CLONE	必須。	ファイルのクローンに割り当てる名前。
--name NAME	必須です。	クローンを作成するファイルの名前。
--parentname PARENTNAME	オプション。	クローンを作成するファイルの親ファイルの名前。
--replfirst	オプション。	最初のレプリケーションファイルのクローン。
--repl	オプション。	レプリケーションファイルのクローン。
--readonly	オプション。	読み取り専用ファイルのクローン。
--thick	オプション。	シック ファイルのクローン。

コマンドデフォルト

なし。ファイル名とクローン名は必須です。

使用上のガイドライン

stcli file clone コマンドでは、位置指定引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli snapshot-schedule コマンド

このクラスタ内のすべてのオブジェクトに対するネイティブ スナップショット スケジュールを有効または無効にします。

```
stcli snapshot-schedule [-h] [--enable | --disable]
```

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--enable	いずれか1つが必須。	ネイティブ スナップショット スケジュールを有効にします。

Option	必須またはオプション	説明
--disable	セットのいずれかが必要。	ネイティブ スナップショット スケジュールを無効にします。

コマンド デフォルト なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli snapshot-schedule コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

ネイティブ スナップショット スケジュールを作成するには、HX Data Platform プラグインを使用します。このコマンドを使用すると、スケジュールを再構築することなく、スケジュールを無効にしてから再度有効にできます。

stcli vm コマンド

HX Data Platform VM ReadyClone およびネイティブ スナップショット操作。

stcli vm [-h] {clone | snapshot}

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	clone	いずれか 1 つが必須。	特定の VM の ReadyClone を指定された数だけ作成します。
	snapshot	セットのいずれかが必要。	特定の VM のネイティブ スナップショットを作成します。

コマンド デフォルト なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli vm コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli vm clone コマンド

特定の VM の ReadyClone を指定された数だけ作成します。

stcli vm clone [-h] [--id ID | --name NAME] --clone CLONE --number NUMBER [--poweron] [--custspec CUSTSPEC] [--guestname GUESTNAME] [--startnumber STARTNUMBER] [--increment INCREMENT] [--resourcepool-id RP-ID | --resourcepool-name RP-NAME]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--clone CLONE	必須。	ReadyClone の名前。
	--id ID	セットのいずれかが必要。	ソース VM の ID。ID は、stcli cluster info コマンドでリストされます。

Option	必須またはオプション	説明
--name NAME	いずれか1つが必須。	ソース VM の名前。
-number NUMBER	必須です。	作成する ReadyClone の数。
--custspec CUSTSPEC	オプション。	ReadyClone のゲスト カスタマイズ仕様。 vCenter のゲスト OS カスタマイズ機能を参照してください。
--guestname GUESTNAME	オプション。	ソース VM 名とは異なることがあるため、ReadyClone のゲスト名を指定します。 デフォルトは、ホストの DNS 名です。この名前を指定するには、その名前を DNS で解決する必要があります。
--increment INCREMENT	オプション。	ReadyClone 名をインクリメントするために使用するサフィックス。 (注) 10000000000 以上の値でクローン番号を増分しないでください。
--poweron	オプション。	クローン作成後に、作成された ReadyClone の電源を入れます。
--resourcepool-id RP-ID	オプション。	ReadyClone を配置するリソース プールの ID。
--resourcepool-name RP-NAME	オプション。	ReadyClone を配置するリソース プールの名前。
--startnumber STARTNUMBER	オプション。	ReadyClone 名をインクリメントするためのサフィックスの開始番号。

コマンドデフォルト なし。一部のオプションは必須です。

使用上のガイドライン stcli vm clone コマンドでは、リストされている必須の位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

stcli vm snapshot コマンド

特定の VM のネイティブ スナップショットを作成します。

```
stcli vm snapshot [-h] {id ID | --name NAME | --folder-id FOLDER-ID | --folder-name FOLDER-NAME | --resourcepool-id RP-ID | --resourcepool-name RP-NAME} --snapshot SNAPSHOT [--desc DESC] [--memory | --quiesce]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--snapshot SNAPSHOT	必須。	ネイティブ スナップショットの名前。
	-folder-id FOLDER-ID	セットのいずれかが必要。	ネイティブ スナップショットを作成するためのフォルダの ID。
	--folder-name FOLDER-NAME	セットのいずれかが必要。	ネイティブ スナップショットを作成するためのフォルダの名前。
	--id ID	セットのいずれかが必要。	ネイティブ スナップショットを作成するために使用するソース VM の ID。
	--name NAME	セットのいずれかが必要。	ネイティブ スナップショットを作成するために使用するソース VM の名前。
	--resourcepool-id RP-ID	セットのいずれかが必要。	ネイティブ スナップショットを作成するために使用するリソース プールの ID。
	--resourcepool-name RP-NAME	セットのいずれかが必要。	ネイティブ スナップショットを作成するために使用するリソース プールの名前。
	--desc DESC	オプション。	ネイティブ スナップショット説明。
	--memory	ペアとなるオプションの 1 つ。	ネイティブ スナップショット用のメモリ。
	--quiesce	ペアとなるオプションの 1 つ。	仮想マシンのファイル システムを休止します。

コマンド デフォルト なし。一部のオプションは必須です。

使用上のガイドライン stcli vm snapshot コマンドでは、リストされている必須の位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。